

令和元年7月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	令和元年7月23日 (火)		
2 開会及び閉会	開会	13時00分	
	閉会	16時30分	
3 出席委員	教育長	菅野和良	
	委員	藤原佳代子	
	委員	石井希典	
	委員	妹尾直人	
	委員	片山美香	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	石井雅裕	教育次長	岡林敏隆
次長(教育総務部長兼務)	赤野政治	学校教育部長	奥橋健介
生涯学習部長	重松浩二郎	指導課長	松岡和俊
指導課課長代理	怒田真由美	指導課課長補佐	今野喜久恵
指導課指導係長	林俊雄	指導課指導副主査	井原進一郎
指導課指導副主査	小野望	指導課指導副主査	小林朋史
指導課指導副主査	河原大輔	指導課指導副主査	佃知美
指導課指導副主査	仲宗根篤史	指導課指導副主査	土井教司
保健体育課指導副主査	栢野健一	教育研究研修センター指導主査	戸川倫通
教育研究研修センター指導副主査	松岡孝佳	教育研究研修センター指導副主査	中野公美
教育研究研修センター指導副主査	赤枝辰哉	事務局(教育企画総務課課長補佐)	澤谷好太郎
事務局(教育企画総務課副主査)	藤野彰		
5 議題及び結果			
第18号議案	令和2年度使用教科用図書の採択について		原案可決
6 教育長等の報告	[令和元年6月15日(土)～令和元年7月12日(金)]		
6/25	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課	
6/26	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、幼保運営課	
6/27	P T A指導者研修	生涯学習課	
6/27	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課	

6/28	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
6/28, 7/2	P T A人権教育実践研修講座①②	指導課
7/3	教育長学校訪問	教育企画総務課
7/3	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、幼保運営課
7/4	教育長学校訪問	教育企画総務課
7/4~7/5	P T A人権教育実践研修講座③④⑤	指導課
7/8	人権問題研修講座	指導課
7/11	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、幼保運営課
7/11	教育長学校訪問	教育企画総務課
7/12	地域と学校の協働フォーラム	指導課、生涯学習課
7/12	教育長学校訪問	教育企画総務課
教育長	<p>○ 岡山市教育委員会定例会を開催する。 本日、傍聴希望者が12人いらっしゃる。入室してもらってよいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ それでは、日程第1に入る。会期について、本日1日限りとしてよろしいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ 日程第2、議事録をまたごらんいただき署名をお願いしたいと思う。 日程第3で事業報告であるが、何かご質問はないか。</p> <p>○ 教育長が訪問をされて、特に感心をされたこととか、お気づきの点をお教えいただけたらと思う。</p> <p>○ 私は今回は中山小学校、大元小学校、それから岡山後楽館中学校、庄内小学校の4校を訪問した。 それぞれ学力向上についての取組や家庭学習への働きかけ、それから問題行動への対応、また働き方改革をどのようにしていくかということを見てきた。 中山小学校は、学力向上については、朝学習をしっかりと改善しようということを取り組まれていたり、授業を一人学びと仲間学びという言葉をつくって組み合わせ取組をされたりしている。家庭学習については、授業の定着、つまり授業の復習をしっかりとしていくということであった。 問題行動については、不登校が2人いるが、しっかり関係機関につなげるという取組をされている。働き方改革については、C4thを活用するのであるが、一日の中で必ず一斉にみんな立ち上げる時間というのを設けて指示、伝達が徹底するようにしている。 次の大元小学校であるが、ここは成績もいいが、それを維持していくというのが精いっぱいということであった。教師が若くなっているということは、かなり維持していくのにもこたえるんだということは話されていた。 それから、大元学習というノートをつくって復習をしているということであった。今のムードを壊さないということが大切だということである。 それから、後楽館中学校は、授業力の向上を一番に考えているのだけれども、やはり高校に自動的に上がれるということで、学習意欲については3年生のときにほかの中学校と比べるとちょっと問題があるかな、ということも言われていた。学校全体としては、できるだけ少人数の指導を心がけているということである。 本当は特別支援が必要な子もいるんだけど、ここは特別支援学級がないので、先生方もチーム後楽館中学校としての力で対応しているということであった。 働き方改革については、これはこの学校の特徴だと思うが、少人数の学習を進めていたり、高校との連携ということで、会議、相談をするということがものすごく、ほかの中学校に比べたら、やはり時間がかかるのかなということであった。 それから、家庭との連絡も大変で、例えば隣近所の子にこれ持って行ってねというわけにいかないの、全市が学区ということで、教師が行ったりとか、取りに来てもらったりとか、いろいろ時間的には難しいということである。 今後、持続可能な中高一貫教育、中高一貫校とするためにどうすればいいのか</p>	
全委員		
教育長		
全委員		
教育長		
片山委員		
教育長		

	<p>ということをしっかり考えたいということであった。</p> <p>最後に庄内小学校であるが、授業改善を積極的に推進している。核となる教師の存在がやはり必要で、今のところいるが、これもつくっていかないといけないなということも言われていた。</p> <p>ここの特徴として、家庭学習について、いわゆる全国調査の結果とかアセスの結果を全体のもので載せて、その裏に個別の学習目標を記入したペーパーを保護者に向けて配布している。その子の課題をぱっと見たらわかるような形にして配布しているので、非常に高い動機づけになるということであった。</p> <p>それから、働き方改革については、定時退庁日を設定したり、C4thを活用したりしているが、ここの特徴としては、50人の職員以上にならないと設置の必要性はないのだけれども、安全衛生委員会を置いて、それぞれの心身の状態を把握したり、健康について話し合ったりしているということである。</p> <p>先日、清水宗治祭があって、学校が地域に伝えているんだと、子どもがそれを体感したということをお話されていた。</p> <p>どこの学校も年齢構成がどんどん若くなっているのだから、これを伸ばしていくのはなかなか大変だという校長先生の素直なお気持ちだったと思う。</p> <p>以上である。</p>
片山委員	<p>○ 先ほど、後楽館中学校で特別支援学級がないというお話で、対象となるお子さんがおられるけれども、チームの先生方のお力で対応されているということだったのだが、今後もこのままチームの先生方のお力に従ってというのか、それを頼りにそういったお子さんの支援をされるという方針が続くということか理解してよろしいか。</p>
教育長	<p>○ これも検討していかないといけない点だと思う。特別支援学級は置かないということはそのまま続いていくと思うが、じゃあ、そういう子どもをどうしていくかということについては、私自身は校長に特別支援学級を置いたらどうかと、入ってくる時にはわからないが、入ってきてから、明らかにそういう子どもだということがわかったときに、厳しいということをお話されていたので、つくったらどうかと言ったら、これはなかなか保護者等の理解が得られないのではないかなということも言われていて、難しいかなとは思っている。またこれも検討していく予定である。</p>
藤原委員	<p>○ 今、報告して下さったことの学力向上で現場はいろんな特色をもってやっておられる中で、中学校の朝学というのは結構広まっているのか。中山中学校のほうであるか。</p>
教育長	<p>○ 中山小学校である。後楽館中学校はやっていないと思う。</p>
藤原委員	<p>○ 小学校が多いのか。</p>
教育長	<p>○ そうである。</p>
藤原委員	<p>○ この朝学は、朝の会の前にするのか。</p>
教育長	<p>○ そうである。</p>
藤原委員	<p>○ 何分ぐらいか。</p>
教育長	<p>○ 大体10分ぐらいがめどになる。</p>
藤原委員	<p>○ 基礎ワークということか。</p>
教育長	<p>○ はい。1週間、毎日するのだが、読書の日をとったりとか、読書を昼にもっていったりするところもある。</p>
藤原委員	<p>○ もう一つ、今もアセスがちょうど返る時期で、そのうち学力状況の結果も返ると思うので、さっき言われた庄内小学校の裏面にとというのは、これは庄内小学校独自であるか。</p>
教育長	<p>○ はい、それは広めたいと思う。</p>
藤原委員	<p>○ 一斉には、例えば市の平均と個人とか、チャートのような感じではあるかもしれないが、さらにその裏といたら何なのか。もっと細かく分析しているのか。</p>
教育長	<p>○ この子がこういうところが今は弱くて、いいのはこういうところである、悪い</p>

<p>藤原委員</p> <p>教育長 全委員</p>	<p>のはこういうところなので、ここを家庭のほうでもよく見てくださいねというような感じのデータだと思う。ちょっと見せてもらったのだが。</p> <p>○ 一面にある数字のその差とかを、文面で保護者にわかりやすいような形で、というものだろう。いろんな学校に広まったらいい。</p> <p>○ その他ないか。</p> <p>○ 〈なし〉</p>
<p>7 議事の概要</p>	
<p>教育長</p> <p>指導課課長代理</p> <p>教育長</p> <p>指導課指導副主査</p>	<p>○ それでは、次の議事に移るが、議案関係課以外の職員はここで退席をお願いします。</p> <p>それでは、日程第4に入る。本日、まず非公開となる議案はないので、早速議事に入りたいと思う。</p> <p>日程第4、第18号議案、指導課から説明をお願いします。</p> <p>○ 本議案は、岡山市立小学校、中学校、岡山後楽館中学校及び岡山後楽館高等学校、並びに小学校及び中学校の特別支援学級における令和2年度使用教科用図書を採択するものである。</p> <p>初めに、小学校で使用する教科用図書の採択をお願いします。</p> <p>委員の皆様には、見本本を事前にお渡しさせていただき、本日まで独自に調査研究を進めていただいている。</p> <p>見本本については、本日、同じ物を机の上に並べさせていただこうと思っている。ご審議の際に必要なに応じて参考にしていただければと思う。</p> <p>また、お配りしている教科書展示会での「アンケート」についても、参考にしていただければと考えている。</p> <p>なお、種目ごとに採択する教科用図書と採択理由を決定していただくわけであるが、進め方については次のように考えている。</p> <p>まず事務局のほうから、種目ごとに選定資料について簡単に説明する。</p> <p>続いて、委員のほうから見本本または選定資料について質問や確認事項があれば、事務局のほうから回答する。</p> <p>3番目に、各委員から採択すべき教科用図書とその理由について発表していただく。</p> <p>意見が一致した場合は、採択理由について審議をしていただく。</p> <p>意見が一致していない場合は、どの教科用図書がよいか十分意見交換した後、採決により決定する。</p> <p>教育長は採択した教科書と採択理由を確認して、採択理由については、選定資料の項目3点程度にまとめたいと思う。</p> <p>以上で小学校教科用図書についての説明を終わる。</p> <p>○ それでは、早速種目ごとに説明してもらおう。</p> <p>まずは国語について審議する。事務局から説明をお願いします。</p> <p>○ 国語について、各社の特徴を説明する。</p> <p>まず、東京書籍である。各単元の学習で重点的に身につける力が「相手や目的を考えて手紙を書く」、「理由や事例を挙げて書く」等の「言葉の力」として示され、学年を通して力が積み上がっていくように工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に、学校図書である。第3学年以上に情報を論理的に捉える教材やイメージとして捉える教材を配置し、情報の関係性を見出し、言葉にかかわる力を育成できるよう工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に、教育出版である。短歌や百人一首、漢文等が幅広く取り上げられ、伝統や文化に幅広く触れることができるようになってきていることが挙げられた。</p> <p>次に、光村図書である。「たいせつ」では、学習を通して身につける力や理解するためのポイントが示されている。また、「読むこと」、「書くこと」の複合単元を配置し、効果的に言葉の力がつくように設定されていることが挙げられた。</p>

<p>教育長 全委員 教育長 指導課課長代理 教育長</p>	<p>以上で説明を終わらせていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ それでは、まず見本本または選定資料について質問や確認事項はないか。 ○ 〈なし〉 ○ 事務局のほうから何か追加することがあるか。 ○ ない。 ○ それでは、採択すべき教科用図書とその理由について各委員、各自で検討された結果を案としてご発表いただきたいと思う。
<p>藤原委員</p>	<p>それでは、藤原委員、願います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今、説明してくれた中で、2社に絞ってきた。あと委員の方々や教育長、皆さんの意見を聞いて、またいろいろ考えたいと思う。 <p>国語で2社に絞ったのは、1社は東京書籍である。それから、もう1社は光村図書である。いろいろ6学年を通じて見せてもらったが、雰囲気的に光村図書のほうは学年が上がっていくに従って、読みごたえがある感じと、ちょっと難しさも感じた。東京書籍のほうは、割と指導しやすいかなという雰囲気を感じた。だから、光村図書のほうが自由度が高いのか、ただ、本格的で扱いによっては深く指導ができるかなという感じはした。ただ、具体的なことで言うと、東京書籍の例えば将来は文法的になることとか、基礎を押さえることがきちっとできているなど思ったのは、例えば「下のを」とか「下のへ」といったりすることの指導が順序立ててうまくやっけていけるなという感じがする。同じような促音って小さい、詰まる「っ」とかというところ、結構子どもは詰まるのは詰まってしまうようなところがあると思うが、そういうところをうまく押さえていると思う。</p> <p>それから、言葉の力であるとか、書く力であるとか、そういうことを深めるためのノートづくり方というのが東京書籍は全学年を通じて入っていたので、これは子どもたちが自学自習をする上で便利がいいかなという感じがした。</p> <p>すごく細かいところで言うと、物語、同じものを扱っているのが2社ともたくさんあったと思うので、それぞれ同じ教材でどんな深め方をするのかなというのでちょっと比較してみたが、割と東京書籍のほうは子どもたちにすぐフィットするような感じのところから、例えば好きなところを見つけようとかという感じで入っていくので、特に低学年なんかはわかりやすいかなという感じがする。定番の「大きなかぶ」のところでは、東京書籍は具体的な日本人の訳者の名前を書いている。でも、光村図書はロシアの民話と書いている。個人的にはロシアの民話と書いたほうが雰囲気が出るのかなという感じで、そのあたりの細かいことがちょっと違うのかなと思った。</p> <p>それから、もう一つ、情報の伝え方が今回学習指導要領に出ていると思うが、それは2社ともとても丁寧にできていたと思う。より丁寧だったのは、東京書籍の、例えばSNSであるとか、インターネットであるとか、著作権であるとか、そういうことに関しても6年生ではかなりたくさん扱っていたのではないかと考えて、新しい学習指導要領に含まれた事項についての的確に押さえられているなという感じがした。</p> <p>2社とも最近の科学的な読み物がたくさん取り込まれていて、説明文の勉強にもなると思うが、その押さえ方はちゃんと根拠があるもので、両方ともとても内容があるものだと思った。一応2社に絞った。</p>
<p>石井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私は、東京書籍を案として選択している。 <p>理由は、一言で申し上げると、今の藤原委員のご説明の中でノートづくり方とか、低学年がわかりやすいというところのご説明もあったと思うが、子どもに寄り添った構成、内容になっているということ強く感じる事ができた。子どもに必要なことを詰め込もうということが全面に出ない様子、あるいは上から目線で教えようということではなく、子どもに寄り添うことで子どもの意欲や主体性のある程度それを育むように教科書自体がなっているのかなと感じた。</p> <p>具体的に申し上げますと、最初に巻頭で学習の進め方とか言葉の力といったページが設けられて、また、1年間で頑張りたいことやできるようになりたいことは</p>

どんなことかなといった優しい問いかけがされているということ。何とかしまし
ようとかという指示、命令になっている部分というのが一般的に多いと思うが、
そういった問いかけがされていること。それから、1年間の学習を振り返ってと
か、6年間の学習を振り返ってというページでも優しい問いかけがされていて、
子どもの生き方とか、自分の思いを大切にしているという姿勢が、子どもの主体
性を育むと感じた。

また、教科書自体も読みやすく、物理的な余白も多いし、フォントが優しい
とか、挿入している絵とかキャラクターも優しくて、いろんなことがどんどん詰
め込まれてきている印象を、全般的にはほかの教科書も全部見ながらそう思った
けれども、あまり1ページに詰め込みがされていないというような印象を受けてい
る。

それ以外のところで申し上げると、こういった基礎、国語とか算数で基礎の科
目については、将来どういうふうに使役につくのかというのが見えにくい部分も若
干あるかなと思っていて、そういった部分をより見えるようにしていただきたい
なと思った。

あとは、国語を身につける上でのフレームワークというか、文章の読み方とか
分析の仕方とか、まとめていく力、発表するとか、そういうフレームワークを身
につけるようにしていただきたいということと、ITとかAIもより踏まえた内
容を増やしてほしいなと希望をもった。

全般的には、世の中が変化していく中で、その急速な変化に教科書もより対応
を求められているんだなということを感じた。

妹尾委員

- どの会社も甲乙つけがたくて迷ったが、私も藤原委員、あるいは石井委員と似
ているが、東京書籍と光村図書のどちらか。どちらかということ、東京書籍のほう
に軍配を上げる。

国語だけというのではなくて、今回、全般的に見させていただく私なりの視点
ということで、児童が主体的に学習していく基礎力を養うことができるかどうか
という視点で考えた。

一つは、学習のフレームワーク、何をどのように学ぶのかということがわかり
やすく示されているかどうか。これは最近の教員の先生方に若い先生がおられる
ということもあって、それは重要なのかなと思った。もう一つは、そのような中
でも幅広く多面的に学習する材料が掲載されているかどうか、この2つで見させ
ていただいた。

その観点からすると、東京書籍のほうは、非常にわかりやすいというか、まあ、
逆に言うと、ちょっと図式的過ぎるのかなという面もあったが、教科書の冒頭に
国語の学習の進め方だとか、こういったものは私が小学校のときはなかったもの
で、やはり進化しているのだなということを感じた。

逆に光村図書のほうは、もうちょっと膨らみがあるというか、教える側のトピ
ック度が高い場合には、非常にいろんな自由な教え方ができたりするのかなとい
うことは感じた。

特に着目したのが、国語の場合、小説だとか、情緒的な面もさることながら、
やはり文の進め方であるとか、説得力のあるロジックを展開するだとか、そうい
った基礎力が養えるような内容が東京書籍のほうには教材として入っていたの
かなと思った。特に国語のノートづくり方であるとか、6年生の文章の論理の
進め方であるとか、説得力のある意見文を書く、こういった事柄は今後、どうし
ても日本人はそのあたりが弱いというか、自分の意見をロジックでもって説明し
て、説得力ある形でプレゼンテーションするという力を養う基礎というものにも
なるのかなと感じた。

片山委員

- 東京書籍と光村図書が1年生から学ぶ国語の教科書として取っつきやすいの
ではないかなと見させていただいた。

特に私は幼児教育が自分の専門というか、常に幼児教育と接している部分があ
るので、幼児教育ではやはり「話す、聞く」ということが国語の最初の段階とし

	<p>て小学校に上がるまでに親しんできているかなという視点で見ると、やはり東京書籍の1年生の教科書を拝見すると、これも石井委員がおっしゃっていたが、文字サイズとか、1ページに掲載されている文字数というのがすごく見やすい感じで構成されているなど感じた。</p> <p>光村図書は、すごくいろいろ工夫がなされていて、特に教科横断的な学習という意味では、全ての教科の学習において国語力が大事なんだということを子どもに理解できるような構成として、国語を中心にさまざまな教科につながっていく、そういう構成を拝見することができたが、東京書籍においては、それももちろん大事なことなんでしょうと思うが、やはり国語力を基礎に、先ほどのフレームワークのように学ぶことに関連して、6年間を通して「話す、聞く、読む、書く」の4類型というのがどの学年にも明示されていて、言葉の力を、4つの力を系統的、段階的に学習して進められるように工夫されているなど感じた。</p> <p>さらに、「生かそう」というコーナーを東京書籍はとられていたかと思うが、今、先ほどの光村図書と同様、学習内容を教科横断的に活用するということと、もう一つ、国語の学習を経て得た知識とか技能について、日常生活にどう生かしていくかという視点も加味された内容で構成されているのだなど感じたので、どちらかというとう東京書籍が1年生からページを追って学習していくのは、しやすいのではないかと感じた。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 皆さん、大体2社、東京書籍と光村図書というところでご意見をいただいているが、どちらかに絞っていかないといけないが、つけ加えて何かないか。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 今、片山委員が言われたのは、小学校1年生で頑張ったなということ、幼稚園とか保育園からこども園から。光村図書のこの1年生のは、まあ、いろいろ想像できる。いい天気があって、わくわくして、次の世界へ進めるんですと。ただ、これを見て、大人の感覚だと、あ、これって毒キノコかなと思ったりして、余計なことをちょっと思ってしまう、字がないところでいろいろ想像したら、これって授業がどういうふうに進めさせていくのかなと思う。もちろん、そういうところも含めてのことで。東京書籍の場合は、とてもダイレクトで、「とんとんとん、始めるよで、みんなで新しい友達と用意はいいかな、勉強の用意はできたかな」というところで両極となっている。この入り方で、さあ、始めようとなる。小学校に上がってすぐの国語としたら、何かこういう入りのほうが単純で、それで、その次にコミュニケーションのことが出ている。「よろしくね」とか、人がつながるとか、声を届けるとか、挨拶とか。何かそれって割と子どものニーズには合うのかな。でも、深く考える子は、この絵を見て、ああ、楽しい学校生活が待っているとか、勉強が楽しみだなと思うかもしれないけど、かなり情報がいきなり多くて、どう指導していくのかなというのは先生の力量にすごくかかわる気がした。だから、うまく持っていく人は、これで、さあ、始めようで子どものいろんな興味をよく引き出すことができるのかな。でも、具体的なことがちょっと少ない。お話楽しいとか、集まって話そうとかあるのだが、1年生で不安な状態のときに、国語の勉強だけじゃなく、自クラスの中でどうやって折り合っていくのかなという出発点としても入りやすいかなというのはちょっと感じた。</p>
<p>妹尾委員</p>	<p>○ 国語が得意とか苦手とか考えたときに、東京書籍のほうがよりその部分を意識された構成を感じるというか、手とり足とりという部分が非常にしっかりしているように見える。そういう部分で苦手な子を少なくしようという、そういう誰でも進められるようなというものをすごく強く感じた。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ どのように組み合わせっていくかというのが教科書を見たら保護者にもわかるし、もちろん先生にもわかりやすいという感じである。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ では、大体ご意見が一致しているようであるので、東京書籍のものを採択するというところで決定してよろしいか。</p>
<p>全委員 教育長 指導課課長代理</p>	<p>○ 〈承認〉 ○ 採択理由をお願いする。 ○ いろいろお話しいただいたが、採択理由を3つにまとめさせていただいた。</p>

<p>教育長 全委員 教育長</p>	<p>まず1点目は、石井委員による子どもに寄り添った構成になっている、このあたりで意欲や主体性につながっていくのではないかと、先ほど具体的であるとか、わかりやすいとか、どの委員も言われたかなと思う。</p> <p>2点目に片山委員が触れた言葉の力が系統的に身につくということで、言葉の力ということもたくさん出てきたかと思うので、2点目とする。</p> <p>3点目にノートづくり方であるとか、学習の進め方であるとか、こういった点はどの委員も言われたかなと思うので、そういった構成のところでは工夫をしているという、そのあたりで3点目ということにさせていただこうと思う。</p>
<p>指導課指導副主査</p>	<p>○ よろしいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ それでは、国語については東京書籍ということで、国語についての審議を終わりたいと思う。</p> <p>続いて書写について審議を行う。事務局のほうから説明をお願いします。</p> <p>○ 書写について各社の特徴を説明する。</p> <p>まず、東京書籍である。目次、学び方、道具、姿勢、筆の持ち方、前学年までの復習がどの学年にも最初に掲載されており、系統的な指導ができる構成となっていることが挙げられた。</p> <p>次に学校図書である。書き込み欄が豊富に設けられ、教科書に直接書き込むことで学習を進められるような構成になっていることが挙げられた。</p> <p>次に教育出版である。文字を比べて話し合う場面が写真や吹き出し等で詳しく掲載されており、児童が考えを伝え合うときのヒントになるように工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に光村図書である。第6学年には各学年で既習した内容をまとめた書写ブックが添付されており、家庭で自主的な学習に取り組む際に活用できるように工夫されていることが挙げられた。</p> <p>最後に日本文教出版である。学習過程が「考える」「確かめる」「いかす」の3段階で示され、流れに沿って学習することで基礎基本の定着につながるようになっていることが挙げられた。</p> <p>以上で説明を終わらせていただく。</p>
<p>教育長 全委員 教育長 片山委員</p>	<p>○ それでは、国語のときと同じように進めてまいりたいと思うが、見本本や選定資料について質問や確認事項、何かあるか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ それでは、採択すべき教科用図書とその理由について、各委員の結果を案として発表いただきたいと思う。片山委員、お願いします。</p> <p>○ 私は、各社、どちらの教科書についても1年生から文字への関心を高めて、正しく、丁寧な文字を書くための基本というのが写真等を含めて丁寧に学習できるように工夫されているなと思った。うちの娘もとにかく丁寧にということは何度も言われてきていたので、その丁寧にというのがどういうことかというのが非常にわかりやすく視覚的に示されているなと感じながら拝見した。</p> <p>中でも私がとてもわかりやすいなと思ったのが日本文教出版のものである。とても関心があるので拝見しているが、運筆練習の段階からとても丁寧に、とめるとか、払うとか、そういった丁寧に、きちんとした文字を書くということにどこに注意を払えばいいのか、そういったことが明確にわかりやすく示されているという点で書写の授業に入りやすい、学習スタイルを身につけやすいのではないかなと思った。それから、岡山市の子どもの課題として、書写の学び方が課題として挙がっていたと思うが、その面に関しても、最初から丁寧に定着が図られているのを感じた。</p> <p>そのほか、東京書籍では、3年生の「書写のかぎ」というのが一連の中で特に何が鍵としてそこは重視すべきなのかということがわかりやすいなと思った。</p> <p>光村図書については、学習のめあてや話し合いの視点などが簡単に示してあったり、マークを用いてその書き方のポイントとかが示されたり、発展が示された</p>

妹尾委員	<p>りしていて、自己学習は進めやすいなというふうにとっても工夫してらっしゃるのだが、やはり1年生からの学習の入りということで、私は日本文教出版がいいのではないかなと個人的に感じた。</p> <p>○ 私も結論的には片山委員と同じく日本文教出版がいいのではないかなと思った。</p> <p>ただ、各社非常によく工夫をされていて、ほぼ好みの問題に近いところがあるけれども、やはり、先ほど申し上げたような学習のフレームワークであるが、各学年その冒頭で書写学習の進め方、「考える、確かめる、いかす」という流れが書写の学習の進め方という形で明確に提示されていて、学ぶ側にとっては非常にわかりやすいのかなと思った。各社ともそうであるが、カラフルで書写学習に対する意欲というのを高めてくれるのかなと思った。</p>
石井委員	<p>○ 岡山市の子どもの課題の中で「日常生活において学習したものを使おうとする意識が低いのに課題がある」と挙げられているが、書写そのものが大人になって日常、実生活への実用性が減ってきているという点が考えられると感じている。</p> <p>大人になってから手書きで字を書くというのも、もう名前とか住所ぐらいしかほぼ手書きするものがない。あるいは、パソコンでブラインドタッチができるほうがより実用性があるのではないかという中で、読める字を書けること以上に、美しい字を書くということが改めて書写の科目をどう捉えるんだということが問われているような気がするし、それを子どもに認知していく必要があるのかなと感じている。</p> <p>国語と同様に東京書籍は丁寧に構成されているのだが、そういう点ではいいかなと思ったが、日本文教出版は、6年生の教科書だと、書写学習の意義というのが明示されていて、その中で、手書き文字には心があらわれるというか、書は伝統文化、このあたりについては各教科書、触れられているのだが、書写って何でやらなきゃいけないのかということのを改めてきちっと巻頭で書いてあるというのは、一つポイントで子どもたちに伝える必要があるのではないかなと感じて、その点において日本文教出版がいいかなと思った。</p>
藤原委員	<p>○ 私も2社に絞ってきたのだが、あまり差がない。今、日本文教出版と光村図書で迷っているところがあるが、気持ち光村図書のほうがいいかなというところがある。書写が特殊な時間になったり、特殊な日本の伝統文化でありながら、あまりなじみがないことになりそう。そのこと以前に自学自習できる書写の学び方が不足している岡山市の子どもの課題を解決するために、毛筆でとめとかはねとか、そういうことに関してすごくわかりやすい。猫のマークで勢いのよいところをすっといくとか、とめるとか、ものすごくわかりやすく書いてある。さらに4年生のところでは、毛筆の始筆とか終筆とか、一番大事なところがどういうふうにするかという確かめるシールまで付いている。だから、書写の時間が少ない中で、より将来的な実用性という、お祝いを書いたり、何か書いたりするとき、毛筆でやってみようかというところまで発展するとしたら、そういうわかりやすさもいいかなと思う。</p> <p>一方では、授業として教えるのにやりやすいのはどれなのかなと思ったら、日本文教出版がとても丁寧でわかりやすい。ただ、応用がきくかどうか、その辺はちょっと個人差があるのかな、教え方もあるのかなと思った。</p> <p>一方で光村図書が残念だなと思って、そうやってはねやとめや始筆や終筆を大事にする毛筆の基本を6年間かけて教えながら、最後の6年生の「自分だけの一言」を書くのがある。芸能人とか有名人のこのページ。自分だけの一文字。確かに池江さんとか、市川染五郎さんとか、小説家の鈴木さんとか、こういうことに関心は子どもたちはあると思うが、6年間書写をしてこの字というのはちょっとどうなのかなと思った。いいんですよ気持ちは。例えば希望の希があり、言葉に書いてある奥深い意味はよくわかる。ただ、書写の本なので、最後の一文字が筆で書いてない字が載って、なおかつ字体や結体があまりまとまってないのはいかがなものかなと思った。</p>

教育長	<p>もう多数決でよいと思うが。</p> <p>○ 日本文教出版が多かったが、ほかに光村図書や東京書籍のほうも票が入っているようであるが、何かもう一度つけ加えておきたいことがあるか。</p>
全委員 教育長 全委員 教育長	<p>○ 〈なし〉</p> <p>○ 今回、票が割れているので、手を挙げていただくということによろしいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ それでは、東京書籍と光村図書と日本文教出版で、この3社で願います。 〈挙手による採択〉</p>
教育長 指導課課長代理	<p>○ 日本文教出版ということで決めたいと思う。 それでは、採択の理由について願います。</p> <p>○ 1点目に、岡山市の子どもの課題でもある書写の学び方ということで、そういった学習のフレームワークのあたりが丁寧でよいというところ。 もう一点の課題である「日常生活において」というところで、書写学習の意義がしっかり書かれているということ。 運筆練習が、とめや払いの説明など、とても明確で丁寧な構成になっていてよいというあたりを3点挙げ、採択理由としたいと思っている。</p>
教育長	<p>○ 今の3項目で日本文教出版ということで書写は終わりたいと思う。 それでは、次の社会をしたいと思う。 事務局のほうから社会について説明をお願いします。</p>
教育研究研修センター 指導副主査	<p>○ 社会について各社の特徴を説明する。 まず、東京書籍である。社会科の学び方の基礎基本となる問題解決的な学習を進めていくことができるよう、「つかむ」「調べる」「まとめる」過程がわかりやすく示されていることが挙げられた。 次に、教育出版である。「学びのてびき」では、学習内容に応じた学び方や調べ方、まとめ方が具体的に示されており、基礎基本の確実な定着につながるようになっていたことが挙げられた。 次に、日本文教出版である。「問い」の欄と「見方・考え方」のコーナーを設け、その時間に働かせる見方、考え方を示すことで、社会的事象の意味や特色を捉えることができるように工夫されていることが挙げられた。 以上である。</p>
教育長 全委員 教育長	<p>○ 見本本や選定資料について質問や確認されたいことはあるか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ それでは、同じように採択すべき教科用図書と、その理由について案として発表していただきたいと思う。</p>
石井委員	<p>○ 私は、東京書籍を案として選択をしている。特に社会科において入り口として最も大事なことは、自分の周囲を構成する要素である社会について、子どもの好奇心をかき立てること、まずそこがスタートだと思うけれども、発達段階に応じて好奇心をかき立てる構成というのが非常によくできていて、キャラクターがドラえもんだったり、写真とか資料、それから宣伝シール、そういうページがあったり、4コマ漫画とか、そういうのが随所にあって、子どもの好奇心が何か湧いてくるのが想像できるという点も挙げたいと思う。 それから、これは偶然ではあるけれども、4学年では岡山市の水道が題材に直接なっているということもあるし、そこから発展的な学習ができるようになっていくということを挙げたいと思う。 あと、岡山市の子どもの課題である問題解決的な学習の方法、学び方が系統的に身につけていないというところに対応して、研究のほうでも指摘があったが、「つかむ」とか「調べる」とか「まとめる」という過程がわかりやすくなっていて、問題解決のフレームワークというのが身につくようになっていくのではないかなと思っている。 内容としては、これは文科省が決めていることだからそうなっているのかもしれないが、お金そのものとか投資だとか、そういう部分に触れるところというの</p>

妹尾委員

があまりどの教科書もなく、そういうものを身につけて、子どものころから考え方を身につける部分があってもいいのではないかなという点と、それから、歴史について身近に感じるという面があるので、歴史を学ぶというところのその意味づけとか好奇心をかき立てるところは、もうちょっと工夫が要るのではないかなと感じた。

○ どうしても社会になると、私の関心が法制度であるとか、政策になってしまっ

て、ややとんがった視点になるかもしれないが、その点だけのご理解いただいて。3社あるけれども、結論から申し上げますと、私は日本文教出版がよいのではないかと思った。1社ずつコメントをしていくと、まず東京書籍、全般的に非常に教科書づくりがうまいなという、わかりやすいなというところはよいのではないかと思った。「つかむ」、「調べる」、「まとめる」であるとか、見方や考え方という、要はガイド的なものがあって、よいのではないかと思った。

ただ、6年生で学ぶ憲法等については、ややちょっと記述が浅いような気がして、もうちょっと突っ込んだ記述があってもいいのかなと思った。ほかの各社も共通するところであるけれども、何でその憲法が定められたかとか、その意義について、あまり突っ込んだ記述がないのかなというところはあった。

あと、歴史についても、ややちょっと記述が平板な気がして、なぜこういう歴史の流れになっているのかというところがもうちょっとあってもよかったのかなと思った。

あと、教育出版のほうは、非常に逆にかなりとんがった記述が多くて、多様な物の見方だとか考え方が記載されているところが目を引いた。いわゆるハンセン病だとかアイヌだとか障害者の問題であるとか、非常に突っ込んだ記述があった。

ただ、その一方で、非常に障害者差別解消法だとか、薬の通信販売で実刑判決が出たり、裁判員制度なんか、非常にトピックは満載なのだけでも、ひょっとしたら消化不良にならないかなと思ったりもした。

それで、最後に日本文教出版であるけれども、バランスがとれているように私には感じられた。見方、考え方というか、オープンな質問があったりして、学習に膨らみや広がり期待できるのではないかなと思った。

先ほど言った憲法の問題であるとかについても、個人を尊重すべきなのだというようにあるとか、法の下での平等といった他社はそんなに突っ込んで書かれてないところも書かれていたし、かなり新しい文献についても触れられているのがポイントかなと思った。

それと、歴史についても、わかりやすい流れで書かれているように感じられた。

各社非常に特色があって甲乙つけがたいところではあるが、私は、日本文教出版がよいのかなと思った。

片山委員

○ 東京書籍と日本文教出版で少し悩みつつ読ませていただいたところである。

いずれの出版社も写真や絵というのは、とてもふんだんに効果的に使われているなというのが第一印象であった。特に歴史というのは、もちろん文字でどう系統的に書かれているかがとても大事かと思うけれども、なかなか思いをその当手をイメージしながら理解していくということにおいては、やはりどんな写真や絵が含まれているかということは、その学習で理解をする上でもすごく大事な手だてになるのではないかなと思った。そのときに、やや東京書籍のほうイメージしやすい、目の前にその情景が広がっているような、子どもの視点から見た風景というのが掲載されている割合が多いのかなという印象をもった。

もう一つ、東京書籍の場合は、学習問題のコーナーというのが構成されていて、その学習内容を振り返ってポイントをまとめるような投げかけがなされて、そこで今度は自分が得た知識をどんなふうにしてそれを自分で広げていくのかというところは、自分の視点で取り組むというところで今後の学習にも発展が促されるのではないかなと思った。

もう一点、東京書籍だけが5年生から2分冊になっているというところの、そ

藤原委員	<p>それぞれの学習、それぞれの教科書を手にとったときに、何を学習するのかということが少し意識化されるのかなと思った。特に6年生では政治。国際編と歴史編とに分かれて2分冊になっているというところで、6年生は中学校以降の学習への意識づけというところで、そういう構成というのもこちらがいいかなと思うので、私は東京書籍のほうの推薦をしたいと思う。</p>
教育長	<p>○ 私も東京書籍と日本文教出版のどちらかなと思って自分なりに考えたんだが、日本文教出版の場合は、地域の方と密接するような素材を扱っているページが結構多かった。例えば、総社のタンさん、ブラジル人の、割と岡山では有名な。だから、わかりやすいんだけど、ああいう形の学習は地域学習の素材のまた別冊ですることのほうがいいのかな、もっとほかのページを割くことのほうがいいのかなというのはちょっとあった。同じようなことがほかのページにもあった。</p> <p>ただ、日本文教出版がいいのは、学びを生かすということで、情報社会とか共同の、コラボレーションの感じが新しい概念がとても丁寧だったので、いいかなと思ったが、最終的には東京書籍かなと今思っている。</p> <p>一番は、やはり問題解決的な学習がやりやすいのかなと思う。先ほどの「つかむ」とか「調べる」とか「まとめる」とか「生かす」、さらにその具体的なやり方として提案文を書くようなページもあった。だから、自分がそれを知識として取り入れて、それをどういうふう生かしていくか、応用力がつくかということまで見定めていくのかなと思った。</p> <p>それから、概念として、今一番多分必要なのが、例えば18歳選挙権にしても、シチズンシップ的な教育で、社会の中で自分がどう関わるかということまで社会科は勉強していかないと、つながらないといけないのかなと思う。それは東京書籍の場合は、責任ある社会的な活動であるとか、地域社会への参加であるとか、民主的な社会であるとか、そういうことが割と多く取り上げられていたと思う。6年生が歴史編と政治・国際編でやっぱりちょっと薄まっただけなところだと思ったのだが、中学校に入って地理的なこと、歴史的なことを深める入り口としてはこれぐらいかなと思った。</p> <p>それと、地域差で使いやすくなるのかなと思ったのは、3年生であったか、どっちかの教材を選ぶこと。例えば農家の仕事を選ぶのか、工場の仕事を選ぶのか、かなりのページを使っていたと思うが、多分学校のある地域によっては、農家の仕事といってもぴんとこないだろうし、工場の仕事といってもぴんとこないだろうし。だから、どっちかを入り口にして地域のことを学ぶというようなことで選択ができることにまでしていたのは、工夫されているかなというのは感じた。</p>
全委員 教育長	<p>○ 今のご意見であると、東京書籍を選択したいという方が3人ということで多いようなのだが、東京書籍で決定してもよろしいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ どの教科書もよく工夫はされていると思うが。それでは、東京書籍ということで、採択理由についてお願いします。</p>
指導課課長代理	<p>○ 1点目に、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」の過程ということで、問題解決的な学習の方法が丁寧に書かれているということで、そういった学習がしやすいであろうということ。</p> <p>2点目に、「ひろげる」コーナーであるとか、提案文を書くところであるとか、そういういろいろなことを広げたり、応用したりしていくことができるということが2点目。</p> <p>3点目としては、子どもの好奇心をかき立てるような構成と言われていたが、興味、関心をしっかりもたせられるような、写真などもそうであるが、そういったことがあるということで理由とさせていただけたらと思う。</p>
教育長 指導課指導副主査	<p>○ それでは、社会科は東京書籍ということで次に進めていきたいと思う。それでは、地図について説明をお願いします。</p> <p>○ 地図について、各社の特徴を説明する。まずは東京書籍である。ページいっぱいの鳥瞰図を掲載し、地図への興味関心</p>

教育長
藤原委員
指導課指導副主査
藤原委員
指導課指導副主査
教育長
妹尾委員

を高める構成がされていたり、地図記号や産業の記号、方位や縮尺などが見開きに一目でわかる配置となっていたりと、地図帳の基礎基本の定着が図れるような工夫がなされているということが挙げられた。

次に帝国書院である。「地図マスターへの道」における3段階のレベルが設定された31カ所、80問の問いや、「まとめのぬりつぶし」のコーナーがあることで、児童が意欲をもって地図帳を活用することができるよう工夫されているということが挙げられた。

以上で説明を終わらせていただく。

- 見本本、または選定資料について、質問、確認事項はあるか。
- 子どもたちに地図を持たせるのは、学年が下がるのか。今は何年生からか。
- 現行、今は4年生であるが、新学習指導要領から3年生となる。
- これが決まったとしたら、3年生にも持たせるということでもいいか。
- そうである。
- それでは、理由と採択する社のもを案として発表していただく。
- これも非常に甲乙つけがたかったわけだが、個人的なことを言うと、私は学生時代、地理が大嫌い、何で嫌いなのかなというところで、歴史はストーリーがあって、割とこっぴどく取っつきやすいというか、いろいろ調べたり、考えたりというのがあったのだが、どうしても何か地理だと暗記みたいな感じがあって、そこが好きじゃなかったのかなと思っている。

ただ、今回、見せていただいた帝国書院を見ると、やっぱりかなり進化しているなという印象をもって、まさしく主体的な学習というのができるように工夫がなされているかなと思った。結論からいうと、帝国書院のほうがいいかなと思っているのだが、選定資料の中に取り上げられているけれども、ハザードマップづくりの手順が書かれているというのは、昨年の豪雨災害を引き合いに出すまでもなく、非常に子どもにとって興味深く取り組むことができるのかなと思う。

あるいは、地図の最初のほうに、そもそも地図って何だろうとか、地図での約束事だとか、そういったところを基本的なところから段階的に学習ができるようになっていて、こういう教科書だったら私も好きになっていたかもしれないなと思った。

片山委員

- 岡山市の子どもの課題のところ、地理的環境の特色や産業の現状等を白地図にまとめていくことに課題があると書かれていたので、やはり私もあまり地図、地理、こういう地図の学習はサボりがちで、なかなか主体的に取り組めなかったのであるが、子どものころ、そういう視点で白地図にまとめるなんていうのはとても苦手だったので、やはり見てみたときの、その地図帳を手にとって眺めてみよう、見てみようという気持ちに向くことというのが第一に大事なかなと思う。そうしたら、どちらが何回も見てみよう、見てみるとおもしろくなってもっと見てみようとなるのかなという視点で見せていただいた。

どちらも工夫して内容が構成されているなと感じたが、特に複雑な地図の中にいろいろな記号で畑のマークだったり、特産品であったり、そういったものが埋め込まれていて、ここではこんなものがとれるのだとか、ここにはこんなものがあるのだとか、あるいは世界の情勢との、世界の地理、状況とか地図とも結びつけて欄のほうに書いてあったり、そんなふうにおもしろく、日常生活に何か聞いたら、これを見てみたら他ともつながって、自分で知ることができるというふうな形のことがいろいろあったので、帝国書院の教科書が個人的にはより子どもが手にとってみて、わかりやすく構成されているのかなと感じた。

それから、どちらももちろん内容的に産物とかは地図上に記載されていたが、多少、帝国書院のほうが、色のグラデーションだと思うが、地図上に記載されているものが浮き出て見やすいのかなと思った。地図の中にリンゴのマークだったり、いろんなほかのマークがあったりすると思うが、そこが地図の字の面とそこに記載されているマークとの対照が、色の色彩面なのか、見やすく構成されているなと感じ、若干帝国書院がいいのかなと個人的には思った。

教育長
藤原委員

- 藤原委員願います。
- 私は帝国書院がいいかなと思う。東京書籍の地図も非常に中身が濃くて情報が多い。小学校3年生から、4年間で見るんだったら情報が多くても発達段階に応じて見ればいいかなと思うのだが、これは3年生、4年生で、もし配るとすると、ちょっと情報量が多過ぎるかなという感じがした。それから、帝国書院の場合は非常に「地図は帝国」みたいな時代がずっと長かったと思うが、やっぱりわかりやすさとかなじみ深い感じの鳥瞰図などが多いなと感じた。

それから、今課題になっている日本の領土について、こことここが日本の領土という書き方ではなくてうまく書いたなと思ったのは、日本の領土とその周りというところで、北端がどこ、南端がどこ、東の端はどこというふうに書いている。そしたら、そこに入ってしまう。そこが尖閣であったり択捉であったりというのは見ればわかる。それが日本の領土という書き方ではない。だから、指導するほうもしやすいのかなというのをちょっと感じた。

それから、自然災害と防災についてというようなタイムリーなことも丁寧に取り上げてあって指導しやすいかなという感じで帝国書院を案にした。

こっちの欠点の一つ、東京書籍のこういう書き方がどうかなと思うのは、縮尺をあらわすときに、領土と主な島ということで、日本と世界の主な島といたりするページがあるのだが、そこに、例えばさっきの択捉島がこれぐらいの大きさである、こっちに来たら、日本列島の本州はこれぐらいの大きさである。ただ面積を書いてあって、面積の単位は違う。何万平方キロメートルとか、ここは単なるキロメートル。数字を見ればわかるが、学年の小さい子どもにとっては、私もすごい単純に錯覚するのだが、本州の大きさと大島や佐渡島の大きさがどうなのというのはちょっと錯覚に陥りやすい。そういうページがわかりやすくするためにいっぱい比べているところに出てくるので、もっと小さなところ、大きなところと比べるとかしたほうがいいのかと思う。結構1ページだけじゃなくいろいろなページにあるので、ちょっと思ったが、でも、ひよっとしたら何か意図があるのかもしれない。

教育長
石井委員

- 石井委員願います。
- 妹尾委員、皆さんからお聞きして、地図に興味もちにくい要素ってあるのかと改めて感じた。そういう面で見れば、東京書籍は歴史とその地図の関連性がより記載されているページがあって、地図自体とほかの何かをつなげて興味を湧かせるような構成というのは考えられているのかなとも感じた。

一方で、領土のところを見てみると、帝国書院は最近よくニュースでも耳にする接続水域という言葉が出てきていて、東京書籍にはそういう接続水域という言葉については説明がなかったということと、それから北方領土及び竹島の記載については、帝国書院は「他国が不法に占拠しています」ということで、不法にという日本国のスタンスが明記されていて、東京書籍は、「占拠されていて日本は抗議しています」という形になっているんだけど、若干弱いかかなと思った。スタンスのどっちが強いかわかると帝国書院のほうがより明確かな、強いかなというように見えた。

あと「地図マスターへの道」は、子どもがおもしろく活用するというのも、ちょっと東京書籍とは違うところで帝国書院は取り入れられているのかなと思った。それぞれよさが違うところがあるが、領土のところはしっかり押さえてあるという意味で帝国書院を案として挙げたいと思う。

教育長
全委員
教育長
指導課課長代理

- いずれも帝国書院ということだが、何かつけ加えたいことはないか。
- 〈なし〉
- 帝国書院ということで決めたいと思う。採択理由について願います。
- 1点目に、子どもたちが興味深く主体的な学習につながるという点。それから2点目に、自然災害の防災のハザードマップのことであったり、現在の課題をしっかりと掲げたりしていること。それから、日本の領土のあらわし方がよいということ。その3点を書かせていただきたいと思う。

<p>教育長 指導課指導係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ それでは、地図については帝国書院ということで進めていきたいと思う。続いて、算数の6社である。事務局から説明をお願いする。 ○ 算数について、各社の特徴を説明する。 まず、東京書籍である。写真やイラストを効果的に配置し、見やすい紙面となっているとともに、わかりやすく丁寧な問題解決の学習展開を通して、基礎的・基本的な概念や性質、技能を確実に身につけることができるように工夫されていることが挙げられた。 次に、大日本図書である。「じっくり深く学び合おう！」では、めあてを示し、解決方法を次のページに配置することで自分の考えを図や式、言葉で表現する言語活動が十分に行えるように工夫されていることが挙げられた。 次に、学校図書である。各単元の導入部分では、生活場面の身近な題材をストーリーのあるイラストを用いて扱うことで学習していく内容を児童が理解し、見通しがもてる構成になっていることが挙げられた。 次に、教育出版である。つまずきやすい学習内容は脚注コラム「よくあるまちがい」「算数ミニクイズ」などで誤答例等を示したり、クイズ形式で示したりして意識化が図られていることが挙げられた。 次に、啓林館である。キャラクターを使って学習活動の支援をすることで、児童の学習意欲を喚起するよう工夫されている。また、「もっと練習」のページを示すなど、自主的に学習できるような工夫がなされていることが挙げられた。 次に、日本文教出版である。各学年に「自分でみんなで」が設けられ、問題解決型学習の手順や具体的な着眼点が示され、既習事項を活用した話し合いができるように配慮されていることが挙げられた。
<p>教育長 全委員 教育長 片山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見本本または選定資料について質問、確認事項はあるか。 ○ 〈なし〉 ○ それでは、採択すべき教科用図書とその理由について検討して下さった結果を案として、片山委員から発表いただきたいと思う。 ○ 私は、啓林館と東京書籍に保護者向けのメッセージが、教科書内はもちろん、教科書の裏にも丁寧に書かれていてとても好感がもてた。というのも、やはり保護者にとって、算数というのは子どもの点差が開きやすい、できる、できないというのが明確になりやすい科目かと思う。そういった意味で学齢期の当初1年生の算数から保護者の方の算数科の学習に対する理解を促すという、そういう文面が教科書の裏表紙についているというのが、とても保護者の方の安心であったり、どのようにサポートしていけばいいのか、どんなふうに学びをやっていけばいいのかという点で好感がもてる、安心できる、保護者に対するメッセージ力が大きいなと思う。 内容に関して拝見すると、やはり先ほど申したように算数科というのは差がつきやすいので、できるだけ苦手意識をもちずに楽しく学べる、そうやって算数の世界に入っていくというのが1年生からとても大事なのではないかなと個人的には考える。そうすると、啓林館はQRコードにつなぐと、動画でとても楽しく学びに導入されているなと感じた。なので、遊びの延長線上の中で算数科の数字に親しむという学習にも導入がとてもしやすいなと思う。 それからもう一点、啓林館のほうでは、6年生の線対称の学習というのが14ページにあったかと思う。線対称とかというのは日常生活の中でなかなか考えにくいかなと思ったりしながら、自分の息子なんかもそうであるが、そうすると、やはり写真や絵を使いながら、折る過程から開いた過程とかそういったプロセスをなかなか言葉では理解しにくいところを視覚的に示してやって、1年生から6年生までなかなか頭の中で考えることが、外に取り出しにくいことを視覚的に示してある点で、啓林館はとても6年間の教科書としてわかりやすく構成されているなと思う。 また、わくわく算数広場というところで学びをどんなふうに日常に生かしていくかというところで、学びの進化発展を促す効果が高いのではないかなと思う。

教育長
藤原委員

同じく6年生の最後の、広がる算数というところでは、算数の苦手意識をもっている、算数って学ぶと将来につながっていいことあるかも、もうちょっと頑張ってみようかなと中学校への数学教育の学習への意欲にもつながる可能性があるのかなと個人的に感じたので、私は啓林館の教科書を第一に考える。

- 藤原委員、願います。
- 私も東京書籍と啓林館で最後どちらかと考えた。どちらの出版社も学年が上がるに従ってはそんなに差異はないが、入り口のところで、小学校1年生の導入のところ、ものすごく差があるなという感じがした。

東京書籍の場合は2ページ目からすぐに足し算が出てくる。足し算が出てきて、3ページから4ページにまた式が出てきて文章題が出ると。一方、啓林館は1年生のスタートはとてもロースタートで、最初数の概念がすごくわかるようにして、それから1とか2の数字の練習もしながら足し算になっていく。多分小学校1年生に入ってからすぐ、1足す2とかといっても足し算の足すマークが書けたり数字が書けたりするというのは、ちょっと性急なのではないかなという気がした。そういう意味では啓林館のロースタートで積み重ねていくような感じがしてわかりやすいかなと思う。結論としては、啓林館を推したいと思う。途中に関しても広がりをととても大事にしておられる。東京書籍も、いろんな工夫をして例えば練習問題であるとか、おもしろ問題にチャレンジですごく意欲が高まるような、子どもにとってはおもしろいページがたくさんあるし、これ両方の出版社にあるのだが、国際コースをやる子、和算のコース、和算の考え方で算数を考えるような、そういうところは共通なのだが、啓林館は展開図のところ、岡山の子どものところで、ほかのどこの子どもも一緒だと思うんだけど、図形の問題は結構弱い子ができる分野じゃないかと思うが、そのときの展開図が4年生のところで、同じ立方体の展開図で1種類も例がある、これだけあるのかと思うぐらい。だから、1つか2つしか展開図がないようであれば違うことを考えた子は、これは自分は間違っていると思うかもしれないが、可能性が、直方体の展開図も含めてこんなに限りなくあるのだから、どれを使っても用途に応じて使えるような、そういう学びの広がりがあるかなと思った。だから、啓林館が最後のところでは、広がる算数ということで、「学校を出たら算数は要らないと思ってませんか」という、これは思う。そんなこと、算数を習ったこと、生活に生きてこないという子もいる中で、いろんな例を挙げて「算数を学ぶ意味はこういうこともあるんですよ」というのを実際の実生活のところまでつなげている。これはとても数学の先への伸ばし方としてはいいかなと思う。最終的には啓林館かなと思った。

教育長
石井委員

- 石井委員願います。
- 私は問題意識としては皆さんと一緒に、算数で差がつきやすいだとか、あるいは分かれてしまうと、そういった部分が教科書によって救われたらいいなという思いを強くもっている。そういう目で決めさせていただいた。

私は東京書籍を案として選択した。全体的に子どもに寄り添う姿勢を、ほかの科目でもそうなのだが、強く感じるというのが一番である。先ほど、委員からのご指摘もあった、6年生はほぼ全て図形からスタートして、目次をぱっと見ると、対称の図形、線対称、点対称とどうもそのように書いてあるが、東京書籍は、つり合いのとれた図形を調べようと書いてある。数学がわかっている人から言えばわかりにくいかもしれないが、わからない人からすれば、自分のこととして入っていきやすいのではないかなと思う。そういったところが随所にあって、恐怖心というか苦手意識をもたないで進められるのではないかなと感じた。ただ、啓林館は皆さんがご指摘のとおり、最後の何で算数を学ぶのかとか、将来の何か仕事と算数の関係性というのが少しかいま見えて、おもしろいところはそういうところだなと感じたのだが、全般的に苦手意識をなくしたいという部分を強く意識して東京書籍を案として選定した。

教育長
妹尾委員

- 妹尾委員願います。
- 私も東京書籍と啓林館で迷ったが、最終的には啓林館がよいと思う。ほかの先

	<p>生方がご指摘されているとおりで、算数あるいはそれにつながる数学を主体的に学んでいくというのは、結局のところつまずきがあるかどうか、苦手意識をもつかどうかということに尽きるのかなと思う。将来何の役に立つかとかという疑問を抱き始めるのは、やっぱりできない子がそういう哲学的な疑問に逃げてしまうところがあるので、あくまでつまずかないことというのが重要なのかなと思った。</p> <p>私のほうは1点、見させていただいたのだが、うちの息子が分数の割り算につまずいた。リンゴを4つに切って、1つは4分の1だというのはわかる。それを4分の1で割ってどういうことなんだと。いや、割るんだからひっくり返すんだとしか私は説明ができなかったんですけど、そこを各社ちょっと読み比べさせていただき、一番すっきりわかったのが啓林館。うまく説明しているなと思ったので、そこで決めた。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ そのほか何かつけ加えたいことがあるか。東京書籍か啓林館かということで。啓林館のほうが多いのではあるのだが。特にないか。</p>
<p>全委員 教育長</p>	<p>○ 〈なし〉 ○ それでは、啓林館が多いようなので、啓林館のほうに決めさせていただいてもよろしいか。</p>
<p>全委員 指導課課長代理</p>	<p>○ 〈承認〉 ○ 採択理由のほうだが、妹尾委員も言われた広がる算数というところで実生活につなげるとか、算数の学ぶ意味が書かれているといったところが1点目。2点目としては、視覚的に示してあり、わかりやすいというご意見があったかと思う。それから、3点目に藤原委員が1年生の導入の違いを言われたが、導入の仕方であったりとか、1年生については丁寧でよいということを挙げたいと思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ それでは、啓林館ということで審議を終わりたいと思う。 次の理科の説明をお願いします。</p>
<p>指導課指導副主査</p>	<p>○ 理科について各社の特徴を説明する。 まず、東京書籍である。理科の見方、考え方を働かせることができるよう比較、関係づけ、条件制御、多面的に考えることについて「理科のミカタ」「学んだことを使おう」の中で具体的に示されていることが挙げられた。 次に、大日本図書である。キャラクターの吹き出しには学年に応じた予想の仕方や観察実験の計画の仕方、考察の仕方等について具体的な視点が示されており、児童が対話しながら学習を進めることができるよう工夫されていることが挙げられた。 次に、学校図書である。イメージ図やモデル図、フローチャート等を使い、違う視点で考えたり表現したりすることで、より考えを深めることができる場面が設定されていることが挙げられた。 次に、教育出版である。「問題」「観察・実験」「結論」という問題解決の過程を重視し、基礎的基本的な内容の習得が図られている。また、単元の終わりに「確かめ」があり、基礎的な内容の定着を図ることができるよう工夫されていることが挙げられた。 次に、信州教育出版である。「まとめよう」では、手書き調のフォントやイラストを使用し、児童に親しみやすいよう工夫されていることが挙げられた。 次に、啓林館である。「つなげよう」「理科の広場」では、学習したことが生活のどのような場面で活用されているのかについて紹介されており、児童が学習の有用性を感じられるとともに、児童が関心を高め、自発的に学習を発展させることができるよう工夫されていることが挙げられた。</p>
<p>教育長 全委員 教育長 指導課課長代理</p>	<p>以上である。 ○ 見本本または選定資料について質問や確認されたいことはあるか。 ○ 〈なし〉 ○ 事務局から何か追加して説明はあるか。 ○ ない。</p>

<p>教育長 藤原委員</p>	<p>○ それでは、採択すべき教科用図書とその理由について、各自で検討した結果を案として発表を藤原委員願います。</p> <p>○ 2社について最後迷った。一つは教育出版で、一つは東京書籍である。どちらも子どもにとってわかりやすいかなという感じはしたが、東京書籍の考え方として、子どもたちが科学的に考えることに基礎になるようなことから扱っているなど。例えば、1年生、2年生の生活科が終わっていきなり理科に入るときにインパクトがある「何で」。だから、多分理科の出発点は、「何で」ということでの疑問からスタートをして科学的な考えに近づくとするので、その基本コンセプトがわかりやすく、中を見ても結構大きな字で考え方の流れが書いてある。それで、予想もしながら計画的に考えて実験に移る。</p> <p>だから、見ることから、気づくことから自分の考えが深まって理科学的な見方になるという、この流れがとてもわかりやすく、理科の苦手な子とか理科って何なのという子にも取っつきやすいかなという気がした。教育出版ももちろん悪くはなく、ただその辺の流れがより明確なのが東京書籍かなということである。どちらも人の誕生、生命の誕生というのは大きく扱われている。これ、すごいことだと思う。多分理科だけで扱うのではなくて、ほかの家庭科であるとか道徳であるとか、いろんなことと合科的なことでしたほうがいい単元だなと思って見せてもらったが、どちらも資料的にはとてもよくできていたのではないかと思う。ただ、東京書籍の判が大きいのは重たいだろうという気がするが、ランドセルには入るのか。</p>
<p>教育長 石井委員</p>	<p>○ 石井委員、願います。</p> <p>○ 私は東京書籍を案として選出した。今、藤原委員もおっしゃったが、3年生に「何で」って、この字が非常にインパクトがあって、委員のおっしゃったとおり、自分の身近なところから「何で」を考える、そこが理科なんだというのを好奇心をもって始められるような工夫がされていると思う。ただ、6年生になると、じゃあその同じページには、あんなどころにも理科、こんなことにも理科というふうになっていて、自分の身近なところからだんだんちょっとずつ離れていって、今の周りにちょっと離れたところにあるところに理科がどうかかわっているのかということが最後にはこういうふうにつながって行って、発達段階というふうな導入されて、深いところまで教える内容になっているのではないかなと感じた。あとはノートの書き方とか振り返り、学習の進め方が明確に進めやすいかなと思ったので東京書籍を選んだ。</p>
<p>教育長 妹尾委員</p>	<p>○ 妹尾委員、願います。</p> <p>○ 私も藤原委員、石井委員の意見に共感をもってお聞きした。結論から言うと、東京書籍を推したいと思う。理科に限らず、実生活上で重要なのは、答えを出すというよりも、どういった問題なのかを発見することが重要なのかと思っており、そこら辺、思考のフレームワークというのが高学年のほうの理科の学び方ということで明確に提起され、まず問題をつかもうということから入って、そこから仮説を立てて観察、実験をして、実生活ではそこでトライアル・アンド・エラーがある状況でも最後に考えてまとめるというようなものの見方、考え方、特に理科の思考様式というところが明確に育っていくのはよいのかなと思った。他社も同じであるが、やはり非常にカラフルで、写真もレイアウトを上手く使っていて、理科に苦手意識をもつ子も少なくなるのではないかなと感じた。</p>
<p>教育長 片山委員</p>	<p>○ 片山委員、願います。</p> <p>○ 私も他の委員がおっしゃられたように東京書籍の教科書を個人的には一応推薦させていただきたいと思った。その理由は、先ほども委員もおっしゃっていたのだが、まず教科書サイズが大きいということが、どんなふうにも他と違いを生むのかということを考えながら見せてもらったときに、やはり気づくという視点で見ると、大判なので、その分やっぱり全ての写真が大きい。大きいと、じっくり見るところが細かく微細ではなくて割と大きく示してあるところが、じっくり見てみて違いを探そうという、そういうふうな動機を生むのかな、そういった</p>

	<p>ところでやっぱり大きいことというのは大事なんだなということをもまず感じた。</p> <p>そして、東京書籍の場合は、学ぶ前の私と学んだ後の私ということで、気づくことによって何がわかることにつながり、わかったことでどういうふうに分が変化するのか。そういった視点も自己の成長という視点からの学び方だとか、科学の目で何が問題点なのか発見することが大事だというようなことを、先ほどおっしゃった委員がおられたが、私もそういう気づいたことによって自分が成長する、気づきから学びが深まっていく、全ての学習に通じるような理科の学習を通じて、学び方のスタイルみたいなものも効果的に意識できるのかなと思った。</p> <p>ただ、教育出版の一ついいなと思ったところがあり、考えるということが気づく、考える、発見する、何かを導く、自分で導くという学習が大事なかなと思うのだが、その中で他社が結果については写真とか絵で示してあって、自分で考えてごらんという情報提供だったように記憶しているが、教育出版は結果から考えようというところで、考えの例が具体的に示してあった。それについては、やはり今、思考力というのがとても大事だと言われている中で、なかなか発表で聞いても音として流れてしまうので、人がどう考えるのか、事例というのが視覚的に人の考えの例というのがもう一度視覚的にどのような自分と比較できるかという点で、とても自己学習に向いているのではないかなという点でとても迷ったが、最終的には東京書籍を推薦したいと思う。</p>
教育長	○ そのほか何かつけ加えたいことがあるか。大体、東京書籍か教育出版かということだが、東京書籍が多かったのだが。よろしいか。
全委員 教育長	○ 〈承認〉 ○ それでは、東京書籍ということで採択をしたいと思うが、理由について願うする。
指導課課長代理	○ まず1点目として、学習の進め方、理科の学び方といったところがわかりやすく示してあるという点。それから、写真が大きいということで、理科で大切な気づきを促している点がいいのではないかということ。それから、理科の見方、考え方についてしっかり細かく示してあるというところ。この3点にさせていたどうかと思っている。
教育長	○ 以上の理由で、理科は東京書籍ということで審議を終わる。 それでは、生活についての説明を事務局のほうから願うする。
教育研究研修センター 指導副主査	<p>○ 生活について、各社の特徴を説明する。</p> <p>まず、東京書籍である。新聞、折りたたみ絵本、パンフレット、ポスター、発表会等まとめ方の表現方法が実物写真とともに示され、得られた情報を整理したり発信したりする際の参考となるよう配慮されていることが挙げられた。</p> <p>次に、大日本図書である。探検カメラを掲載し、児童が見つめる楽しさを実感できるように工夫されている。また、巻末の「がくしゅうどうぐぼこ」では、草花遊び、自然事象の変化等が幅広く紹介され、児童の関心を深め、発展的な学習につながるよう配慮されていることが挙げられた。</p> <p>次に、学校図書である。巻末の「生活科学び方図かん」では「話す・聞く・書く・発表する」等の表現の仕方が示され、児童が自ら考えたり表現したりしやすいように工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に、教育出版である。単元末に設定された「まんぞくハシゴ」で、児童自身が達成感を味わったり、振り返りを習慣化したりできるように工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に、信州教育出版である。大豆の畑づくりから収穫までの流れが詳しく記載されており、「いっぱいみのったね」では大豆からつくられるものを調べることで発展的な学習につながるよう工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に、光村図書である。学んだことをもとに、実生活でやってみたいことをシールに書き、教科書に直接貼ることができるようになっており、実生活の場面につながるよう工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に、啓林館である。学習内容にかかわる言葉の投げかけや写真を示し、児童</p>

<p>教育長 全委員 教育長 指導課課長代理 教育長</p>	<p>の思いや願いを高めるとともに、紙面右端に学習のつながりがわかる言葉を示し、活動で生まれた気づきや思いを次の活動につなげていくことができるように工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に、日本文教出版である。授業風景や教室のイラストや写真にカードや巻物、紙芝居等、多様な表現方法が示されており、まとめ方を自分で選択して表現できるようにになっていることが挙げられた。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 見本本や選定資料について質問、確認事項ないか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ 事務局から追加説明はいいか。</p> <p>○ なし。</p> <p>○ では、教科用図書社の名とその理由について、発表いただけたらと思う。藤原委員願うする。</p> <p>○ 迷ったのは日本文教出版と東京書籍だが、今東京書籍がいいかなと思っっている。生活科は1年生と2年生。多分、社会も理科も普通の生活の仕方に合体したようなものだと思うが、特に1年生は就学前の生活とのドッキングというつながりが一番大事で、それは幼稚園や保育園では遊びの中で自然観察をしたり、友達と仲よく遊んでたりしたようなことが少し勉強的になるかなという、その学びの入り口に入るとして、東京書籍の分はとても具体的な活動や体験をもとにして、それが勉強というかた苦しいものではないんだけど、少し学習につながるかなということがやりやすそうな感じがする。</p> <p>それから、身近な生活にかかわる見方や考え方で、例えば通学路の安全であるとか、自分の一日の生活であるとか、それは考えながら、なおかつ町の探検で社会や理科の関係になる自然であるとか地域とのつながりとか、そういうものに自然に移行していくような形が上下巻とも感じられたので、東京書籍がいいかなと思う。</p>
<p>教育長 石井委員</p>	<p>○ 石井委員、願うする。</p> <p>○ 生活はすごい教科書が多くて、本当にだからそういう意味でよさがすごくそれぞれ違うので非常に難しい、選ぶというのはなかなか難しいということと、それからそれぞれ好奇心をかき立てるような工夫がされていたのかなと思っただが、今の話にもあったが、東京書籍はやっぱ接続、ほかの科目もそうなんだが、幼稚園、保育園から小学校、この場合は3年生にということだと思っただが、このつながりの部分が非常にスムーズにできるように工夫がされているのかなと思う。研究のところでも指摘がされている、町の探検とかそういうものが繰り返して出てきて、自然と子どもたちが興味を湧くような内容、構成になっている。</p> <p>それから、ほかの人と何回も繰り返しになってしまうが、フォントが大きくて優しいとか見やすいといった点も東京書籍共通のことではあるが、繰り返しだが改めて挙げさせていただいて、東京書籍を案として挙げたいと思う。</p>
<p>教育長 妹尾委員</p>	<p>○ 妹尾委員、願うする。</p> <p>○ 私も同じく、結論としては東京書籍を推したいと思う。小学校1年生、2年生の児童にとって非常に取っつきやすいというか、恐らく写真の使い方、レイアウトの使い方が上手かなと思う。特におもしろいなと思っただが、選定資料の中で指摘されているが、変形ページを使って植物の種から始まって双葉、それから後花が咲くというのが一覧できるような形での工夫がなされていて、非常にレイアウト的におもしろいなと思っただが、</p> <p>あと個人的には、私は実家がど田舎なのだが、岡山市はすごい都会だと思っっているが、割とやっぱり植物の名前を知らない方が結構多くて、こんなにも知らないのかと思うことが多いのだが、身近な植物の名前だとかも結構丁寧に書かれていて、そのあたりも小学校1年生、2年生にとっては、特に実際にあまり触れ合う機会がない、お子さんにとってはよいと思う。</p>
<p>教育長 片山委員</p>	<p>○ 片山委員、願うする。</p> <p>○ 私もたくさんある中でいろいろおもしろく拝見したのだが、最終的には東京書</p>

	<p>籍を推薦したいなと思う。理由としては、やはり幼児教育期との接続ということ藤原委員はおっしゃっておられたが、私もそこはすごく興味深く拝見した。東京書籍は、やはり上巻では、見る子どもの視線の高さという、すごくアングルを大事に丁寧に取り扱われて写真や絵が掲載されているかなと思う。そのために1年からさまざまな活動を子どもが体験的に学べる工夫がなされていると強く感じた。</p> <p>やはり幼児教育の延長上に生活科という接続のためのカリキュラムの一端が入りやすく工夫されているかなと思う。特に上巻には身の回りの生活に自立的に関わっていくということが大事にされ、その中では約束というのが欄外に設けられていたかと思うが、その約束の内容については幼児教育の遊びとか生活の中で特に先生からいろいろと教えてもらってきたことが幼児化されていて、やはり幼児教育で学んだことというのが生かされながら子どもは小学生になっていくという意識がもちやすいのかなと思った。下巻では徐々に子どもが成長して、小学生としての立ち居振る舞いをしていたらさまざまな気づきを経て、自然に生活を広げ、科学的な視点、社会的な視点を身につけていけるような構成になっているなと思った。</p> <p>最後に、著作関係者のところに関心があり拝見したが、やはり幼児教育のよく目にするそれぞれの分野の先生方のお名前を拝見し、やはり安心感があるな、生活科を大事に編集してくださっているなと思い、東京書籍を推したいと思う。</p>
<p>教育長 全委員 教育長 指導課課長代理</p>	<p>○ 皆さん、東京書籍ということで決まりそうだが、何かほかにつけ加えてお話しになりたいことはあるか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ 生活科は東京書籍ということで、採択理由をお願いする。</p> <p>○ まず、一番に皆さんが言われた、就学前とのつながりであったり、3年生に向かう社会や理科への自然なつながりがというところで採択理由とさせていただきますと思う。それから2点目に、フォントだったりとか写真やレイアウト、アングルまでいろいろ工夫されていて、変形ページもそうだが、そういったところで子どもたちが主体的にというか自分でページを見ることによって体験できたりするような工夫がされているというところを挙げたいと思う。それから3点目に、選定資料にあるが、町探検が繰り返し登場して、気づきの質が高まっていくという、そういった点を挙げたいと思う。</p> <p>以上である。</p>
<p>教育長 指導課指導副主査</p>	<p>○ 今の理由で、東京書籍を生活科は採択する。 それでは、続けて音楽のほうを事務局から説明をお願いする。</p> <p>○ 音楽について各社の特徴を説明する。 まず、教育出版である。音楽を形づくっている要素を「音楽のもと」として見開きごとに示したり、巻末に「音楽のもと」のまとめを示したりしており、児童が音楽的な見方、考え方を働かせる上で参考にすることができるように工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に、教育芸術社である。キャラクターの吹き出しの中に課題意識をもつことができるような問いかけや、児童が思いや考えをもち、学習のねらいや達成に向かうことができる内容が示され、意見交換ができるようになっていることが挙げられた。</p> <p>以上である。</p>
<p>教育長 全委員 教育長 指導課課長代理 教育長 片山委員</p>	<p>○ 見本本や選定資料について質問、確認事項はないか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ 事務局からつけ加える点はないか。</p> <p>○ なし。</p> <p>○ では、採択すべき教科用図書とその理由についての説明を、片山委員、お願いする。</p> <p>○ 私はどちらも興味深く拝見したのだが、教育芸術社を個人的にはおもしろいか</p>

などというふうに拝見した。理由は、やはり先ほどもあったが、1年間の学習の見取り図というのを、歌う、演奏する、つくるの表現部分と、聞く、鑑賞の領域に分けてその学年の学習課題がわかりやすく配置されていて、何を今ポイントに学んでいるのかなという意識づけにもなって、学習が意識をもって進めやすいかなと思う。

2つ目に、全ての学年において「心の歌」とか「歌いつごう日本の歌」のように我が国の楽曲が紹介されていて、やはりグローバル化の中で、自国の文化継承に関する教育内容が工夫されているという点で、音楽を楽しむことと自国を意識するという点でとてもいいかなと思った。

教育長
妹尾委員

○ 妹尾委員、願います。

○ 私も教育芸術社の教科書が適切ではないかなと考えた。先ほどの片山委員と重なるのだが、教科書の冒頭に、例えば6年生であれば6年生の学習ということで見取り図的なものが示されているというのが教育する側にとってはわかりやすいかなと思った。それと選定資料の中でも触れられているが、キャラクターの吹き出しの中に問いかけ、こういう問題意識というのを児童に示すという、そういう役割を果たしているのだから、このあたりも主体的に学習に取り組むことができるのかなと思った。

教育長
石井委員

○ 石井委員、願います。

○ ちょっと選べなかったもので、皆さんの意見をお伺いしながら決めたいと思う。個人的なことを言えば、私は音楽は苦手だったので、そういう意味で苦手意識がある中で改めて教科書を見てみて、あまりそれが払拭されるようなことはなかったというところで。それを個人的なことで決めてはいけないので、今の岡山市の子どもの課題の①番の、音楽を聞いて覚えて歌うことはできるが、曲や演奏のよさに触れ、よりよい表現を目指して主体的に考えて表現したい思いや意図をもつことや、友達と考えを交流することに課題があると書かれてあるのだが、一方で、今の子どもたちは、スマホを使ってT i k T o kという自分なりの歌とかダンスを踊ったりするのを友達とやって、それをさらにいろんな人と共有するというのを、今すぐ使っているわけだけでも、それはだから課題があるというよりは、むしろ今の子どもたちってすごいなっていう、むしろ発達しているなという、すぐそういう感想をもっているのだから、ここの課題のところと今の子どもたちの実際の状況は一致してないと感じて、これはどういうことなのかなというのが改めて理解ができなかったというところである。そういう今どきの音楽のことと、音楽のそれ以外の要素というのがあると思うので、今片山委員がおっしゃったように伝統的な日本の歌をつないでいくという部分とか、僕は主体的に学べる要素があるというのは、参考にさせていただきたいなと思う。

教育長
藤原委員

○ 藤原委員、願います。

○ 結論から言うと、教育芸術社がいいかなと思う。それは、先ほどから、いろんな意見が出ているが、やはりこの教科書を深めるために何をやるのかというのが、この扉にちゃんとある。これを見ながら、今日勉強する分はこのこれに合うとかというふうに広げていけば、おのずとその授業の目標が想定化されて、子どもにもわかりやすいのではという気がする。

それから、同じ楽曲でも今日は演奏するのはこことここを中心にするとか、いつも振り返りができるとか、これであまりばらばらにならない授業のもとになるかなと思う。

それから、振り返りにも例えば中のほうにある自分のリズムをつくるとか、曲の感じに気をつけるとか音楽の特徴に気をつけて聞くとか、いわゆるその授業の目標らしきことが必ずあるので、それはとても使いやすいと思う。

もう一つ、「君が代」の扱いだが、どの教科書にもあると思うが、教育芸術社のはいつも巻末にある。ここにあるからわかりやすい。教育出版のはあるんだけど、いろんなページにある。だから、そのつもりで開けないとわからない。教育芸術社の場合にはいつも最後にあって、さらに発達段階に応じて説明文や写真が

<p>教育長 全委員 教育長 指導課課長代理</p>	<p>違う。だから、例えば「さざれ石」も学年によっては、何県のさざれ石とかいうことが書いてあるのは、特に無味乾燥に歌うことが多い中でわかりやすいかなと思う。小学校1年生でも多分学校の入学式とか卒業式とか式典には必ず使われるものがあると思うので、必修の歌唱教材でなくてもやっぱり深めていくところは要ると思うので、その扱いはわかりやすいかなと思った。</p> <p>もう一つ、编者について、編集者、著作の方について、どの本も大学の専門家の方がたくさん関係しておられるようである。音楽に関してこの编者もそれぞれ大学の先生が関係しておられるのだが、こと音楽は芸術教科ということであれば本当のプロ。例えば教育芸術社であれば作曲家とか合唱の指揮者とか尺八の藤原道山さんであるとかリコーダー奏者であるとか、それぞれの分野のオーソリティーの方が編集に携わっているというのは、割合本当に学者さんだけが考えてもできない部分が補完されるのではないかという感じがした。</p> <p>○ 3人が教育芸術社だったが、よろしいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ 音楽は教育芸術社ということで、採択理由をお願いする。</p> <p>○ 3人の委員が言われた、扉絵のところにある学年の学習というところでしっかりねらい目がわかるようになってきているという点と、2点目に選定資料にもあったが、キャラクターの吹き出しの中に課題意識をもつ問いかけがあるという点、それから3点目にこれも選定資料にあったが「歌いつごう日本の歌」と、こういったところでしっかり今の伝統のほうも大切にしているということと、先ほど「君が代」の話もあったが、そこを挙げさせていただきたいと思う。</p>
<p>教育長 教育研究研修センター 指導主査</p>	<p>○ それでは、続いて図画工作である。 では、図画工作について事務局のほうから説明をお願いする。</p> <p>○ 図画工作について各社の特徴を説明する。 まず、開隆堂出版である。題材の扱い方や作品の見方を各学年の発達段階に応じて取り上げており、系統的な指導ができる構成となっていることが挙げられた。 次に、日本文教出版である。はさみや絵の具の使い方など技法がわかる写真やイラストが多く、安全指導や片づけの方法が各題材に配置されていることが挙げられた。 以上である。</p>
<p>教育長 全委員 教育長 指導課課長代理 教育長</p>	<p>○ 見本本や選定資料について、質問や確認事項はないか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ 事務局のほうからつけ加えることはあるか。</p> <p>○ なし。</p> <p>○ それでは、採択すべき教科用図書とその理由について、検討した案を言っただきたいと思う。 妹尾委員からお願いする。</p>
<p>妹尾委員</p>	<p>○ 私は開隆堂のほうがいいのではないかと思った。甲乙つけがたいけれども、やはり選定資料の中でも触れられているが、学習のめあてが冒頭で明確になっていて、何を学ぶのかということがガイド的に示されているというのが児童にとっては参考になるかなと思う。あと、目次の欄にも題材の内容を色であらわす造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞とに分かれていって、そのあたりもわかりやすいかなと思った。</p>
<p>教育長 石井委員</p>	<p>○ 石井委員、お願いします。</p> <p>○ 開隆堂を案として選定した。図画工作という科目が一番自分らしさとか独自性とかを発揮できる科目なのかなと考えており、表現の方法とか発想の視点というのが数多く示されていて、楽しく主体的に取り組めるように工夫されているのかなと感じた。一方で、5、6年生のところは「つながる思い」というところにつながっていて、独自性ということとちょっと反対の概念も若干出てくると思うが、デザインというのが社会で共有される大事な要素で、それがわかりやすく</p>

<p>教育長 藤原委員</p>	<p>みんなからの注目も出て、それは何なのかというのが学習できるような内容が含まれていたと思う。今、ビジネスの世界でもデザイン経営という言葉がすごく出てきており、ブランド力だとかイノベーションの力を高めるためにデザインの重要性というのは非常に高まっていて、そういったことも若干意識されているような内容を感じたので、その2点で開隆堂を選定した。</p> <p>○ 藤原委員、願います。</p> <p>○ 私も開隆堂が一番適切かなと思って読ませてもらった。開隆堂のは全部学年ごとに表紙にテーマが書いてある。わくわくするよとか、見つけたよとか。全部が全部それに入らないかもしれないが、そういう方向でこの学年は図画工作をやっていくという感じがよく伝わった。だから、開隆堂はいろんな素材が多い、いろんな素材を活用して材料にして、工作であるとか作品づくりをしているなど。さらに、その結果だけではなくて、その最後のページの周りの資料のところ、工具の使い方であるとか、それから技法的なことであるとか、その途中経過に大事なことが割と丁寧に書いてあるので、これを見ながら、こうやったらもうちょっと好き勝手ができるんだなという感じがつかめるのではないかなと思う。</p> <p>もう一つ、巻末に小さな美術館という扱いがあって、つくった作品が本当に展示されるような感じであらわされている。もう一つは、つくった作品が遊びのもとになる、遊び方にも、こういうふうに使ったら、つくった作品が表現したことだけじゃなくて遊びにも使えるよというような流れがあるのはとても実用的というか、子どもさんにとってわかりやすい教科書かなという感じはした。</p>
<p>教育長 片山委員</p>	<p>○ 片山委員、願います。</p> <p>○ 私もほかの委員と同じように開隆堂の教科書がとてもおもしろいなと見せてもらった。重なるので違うところだけ申し上げると、私は「くふうさん」、「ひらめきさん」、「ころさん」という3つの観点がマークで示されているところがとても魅力的だなと思った。特に図画工作は、評価はつくだが、やはり自分らしく、何か感性だったり自分の中のいろんな感じ方を表現するという意味で、評価の観点が自由な発想を促すようなそういう視点が設けられていて、人と比較したり自分ができるできないという視点ではなくて、何を働かせて自分らしさをつくっていくのかなということがすごく促されるのかなという観点で開隆堂の教科書がいいかなと思った。</p>
<p>教育長 全委員 教育長</p>	<p>○ つけ加えることはないか。</p> <p>○ 〈なし〉</p> <p>○ では、図画工作は全員一致で開隆堂ということである。採択理由について願います。</p>
<p>指導課課長代理</p>	<p>○ まず、1点目に選定資料にあるけれども、学習のめあてが明確になっているという点。それから、石井委員、片山委員が言われる自分らしさにつながるというか、どういったものを働かせて自分らしさにつなげればよいかということがわかりやすいというところ。それから3点目に、藤原委員が題材の扱い方について言われたが、選定資料にもあるように、そういったところがしっかり発達段階に応じて取り上げられていることで、子どもたちのスキルアップにつながっていくといった点を挙げたいと思う。</p>
<p>教育長 教育研究研修センター 指導副主査</p>	<p>○ 図画工作は開隆堂ということで採択が決まった。 続いて、家庭科について、事務局から説明を願います。</p> <p>○ 家庭科について各社の特徴を説明する。 まず、東京書籍である。5か所に「生活を変えるチャンス！」のコーナーが設けられ、課題例や実践事例が豊富に掲載されるとともに、実践の進め方が丁寧に紹介されており、学んだことを実生活でどのように生かせばよいかイメージがもちやすくなっていることが挙げられた。</p> <p>次に、開隆堂である。「レッツトライ 生活の課題と実践」のページが設けられており、課題解決に向かうためのステップと取組の例が詳しく掲載され、家庭での実践につなげやすい工夫がされていることが挙げられた。</p>

<p>教育長 全委員 教育長 指導課課長代理 教育長 石井委員</p>	<p>以上である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ では、見本本や選定資料について、質問や確認事項はないか。 ○ 〈なし〉 ○ 事務局からつけ加えはないか。 ○ なし。 ○ それでは、教科用図書の社名とその理由について、石井委員お願いします。 ○ 私は開隆堂を案として選定した。また個人的な話で恐縮だが、子どものころは、家庭科は女子が主体的に取り組む科目だという勝手な個人的な印象をもっていたけれども、今は強く反省している。そういう意味で開隆堂の教科書の中では、生活の見方、考え方というか4つの視点で整理されて、巻頭に提示されていることで、学習の意義を感じることができること。それから、それぞれの題材の指摘もされているけれども、「生活に生かそう」のコーナーが設けられていて、実際につなげていくことができるというところを挙げたいと思う。より社会が男子も女子も変わりなく家庭の仕事に取り組むということを踏まえた中身になっていて、主体的に男子も取り組めると感じた。
<p>教育長 藤原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 藤原委員お願いします。 ○ 私も開隆堂の教科書が一番教えやすいかなという感じがした。一番開隆堂が、先ほど、石井委員が言われたようなことも配慮しているなと思う。例えば、男の子が三角巾をしたりする写真ももちろん多いが、さらにグローバルに、外国人もモデルとして登場していたりして、そういう意味ではいろんな広い視点に立っている。最後のところで、9の項目で持続可能な社会を生きるということで、ESDとかSDGsとか、その言葉は使わないけども、そういう観点を彷彿させるところがあり、幅広い他のそういうことを全部含めているんだなというのを感じた。もう一つ、左ききと右ききのことを割と詳しく書いている。左ききも7%とか8%いるということになると、はさみや道具が全部違うというのが、教科書で触れられていたら、あまり卑屈にならずに、やることもできるし、道具で工夫すればやりやすいかなと思った。右手用の道具を使うのは、やっぱりやりにくいこともあるだろうし、そういうことから配慮した、非常にやっぱり幅広い、奥の深い取り上げ方かなという感じがした。
<p>教育長 片山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 片山委員、お願いします。 ○ 私も開隆堂の教科書がいいかなと思った。理由は、まず单元ごとの学習のめあてが端的に示してあるので、2年間の学習内容が一覧できること。なので、今学んでいることがどういうことなのか、どの部分の学習をしているのかというのが、わかりやすいということと、さらに、中学校での学習に接続するように、「中学校の学習に生かそう」というページがつけ加えられている点が、現在、未来とつながって、学年進行に伴う学習内容の見通しがもちやすいという点がいいなと思った。 <p>それからもう一点、やはり「岡山市の子どもの課題」にもあるが、家庭科で学習したことを、家庭、地域などのさまざまな場面で実践しようとする態度に課題があるという中で、この開隆堂のテキストの中では、自分、家庭、地域、社会というように、身近なところからだんだん周りに目を向けていって、社会の一員としての自分のあり方というものを意識化させるようなことがなされていて、いいなと思った。生活者としての自分が、支えられている自分から、今度は支える立場になっていく、そんな自己意識の変革を促すような視点での構成かなと思い、この開隆堂を推薦したいと思う。</p>
<p>教育長 妹尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 妹尾委員、お願いします。 ○ 私も開隆堂をと考えている。非常に多様な視点から、かつ一番科目として実践的な科目なわけで、そこが生活の実際を目指して多面的に解説がされているかなという感想をもった。 <p>特に、ちょっと着目したのが、「生活を支えるお金と物」というところで、消費者教育の最初の手ほどきみたいなことも書かれていて、このあたりのことも詳</p>

<p>教育長 全委員 教育長 指導課課長代理</p>	<p>しく触れられているところがよいのではないかと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4人の委員の皆さん、開隆堂ということで、決定してよろしいか。 ○ 〈承認〉 ○ 採択理由についてお願いします。 ○ 選定資料にもあったが、「生活に生かそう」というコーナーが設けられて、日常生活に生かせるような工夫がされていること。それから2点目に、單元ごとのねらいがわかりやすく示されていて、見通しをもって学習に取り組みやすくなっている点。3点目に、多様な視点ということで、持続可能な社会であったりとか、消費者教育であったりとか、現代的な課題などにも触れているという点。
<p>教育長 保健体育課指導副主査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 以上の理由で開隆堂に決めたいと思う。 続いて、保健について事務局から説明をお願いします。 ○ 保健について、各社の特徴を説明する。 まず、東京書籍である。全單元が、児童の気づきをもとにした課題解決学習の進め方で統一されており、児童の考えたり表現したりする力の継続的な育成が図られていることが挙げられた。 次に、大日本図書。各単元の初めに、「わたしたちはどこかな？」という人探しゲームのページがあり、各単元の学習内容に関連する人物を探す活動を通して、学習内容への興味関心を喚起する工夫がされていることが挙げられた。 次に、文教社。「新しい自分にレベルアップ」では、身につけた知識をもとに自分の課題を考えたり、単元末の「〇〇せん言」では、授業での学びをどのように生活へ生かしていくのかを考えたりできるようになっており、実生活の場面への活用が図られていることが挙げられた。 次に、光文書院。まわりの人の意見を聞く活動や、実生活と関わりのある課題について考えたり、書いたりする活動を取り入れるなど、言語活動の充実が図られていることが挙げられた。 次に、学研教育みらい。「つかむ」、「考える・調べる」、「まとめ・深める」というキーワードで課題解決的な学習に取り組みやすくなっていたり、「かがくの目」で科学的な見方が示されたりしており、児童の考え、判断し、表現する力の育成が図られていることが挙げられた。 以上である。
<p>教育長 全委員 教育長 指導課課長代理 教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見本本や選定資料について、質問や確認事項はないか。 ○ 〈なし〉 ○ 事務局のほう、つけ加えはないか。 ○ なし。 ○ では、採択すべき教科用図書とその理由について、検討された結果を案としてお願いしたいと思う。 藤原委員、お願いします。
<p>藤原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私は、学研教育みらいが適切かなと思った。どこの教科書会社も割とオールラウンドにいろんなことを、生活習慣病に関してまで書いてあるが、特に薬物乱用の害なんかには、学研教育みらいはとても丁寧に書き込みがあった。保健というのは、今の自己の保健に関する課題だけじゃなくて、今の世の中に起きていること、将来自分が関係するかもしれないということまで考えるところにはいけないと思うので、世の中で、薬物乱用の害がかなり出回っていて、それは大きくなってからでは、もう何か意識の中に入りにくいと思うので、この保健の中で、これぐらい丁寧に組み込まれているのは、いいことだなと思った。 そして、がんについての扱いが、最終的に迷ったのは東京書籍と学研教育みらいだが、どちらもがんについては、とても丁寧に書かれていて、最後の着地のところが、がんは治る病気だというメッセージを送らないといけないと思う。今、2人に1人ががんで、子どもにはあまり関係ないにしても、保護者ががんになる可能性は十分あるわけだから、それに対して、怯えず不安にならずに対処できるとしたら、科学的なことが多く書いてあるほうがいいかなと思う。それには、ど

教育長
片山委員

ちらの教科書会社も、がんは治ると最後は書いてあるのだけれども、学研教育みらいが、より丁寧に、そのことに触れているので、より勉強していくと、これを読んだだけでも勉強になるのかなという感じがした。

それから、悩みへの対処、メンタルな部分も、多分、小学校の高学年ぐらいになったら大きいと思う。それについても丁寧に書いてあると思う。もう一つ、付随することで、子どもたちをどう呼ぶかというのを教科書を見たら、東京書籍は、男の子にも女の子にも「さん」がついていた。それも、よく考えておられるなど思った。一方、学研教育みらいは、「さん」ではなくて、名字とか名前とか、それだけの記述で、いろいろやっぱり、「君」とか「さん」とかは区別しないようにしているんだなという配慮を両方感じた。

○ 片山委員、お願いします。

○ 私は、東京書籍と学研教育みらいで迷ったが、東京書籍を推薦したいと思う。理由は、使い方にはいろいろ注意しないといけないことであろうかとは思いますが、動画を効果的に使われているかなという点で、やはり今の子どもたちの生活に応じた、動画を効果的に使う、ただしそこでは、ちゃんと保護者とか先生に使うときには相談してね、という注意喚起もきちんとなされている。例えば、手洗いなんかでも、やはりほかの書籍でも手洗いの順序とかが写真を使って示してあるが、やっぱり動画だと、その紙面で示されている間の動きってというのが、やっぱり効果的に見やすいなと思う。やはりそういった動画を使いながら、生活をきちんと自分で整えていくという視点で、何か教材の効果的な活用という意味で、東京書籍がいいなと思った。

もう一点は、先ほど藤原委員がおっしゃった、心の健康の部分に関してなのだが、5、6年生の東京書籍の教科書の中に、不安や悩みの単元の中で、対人関係スキルを向上させるロールプレイングというのが紹介されていて、それを実践するような形で教科書が組まれていた。それをやっぱり応用して、いろんな面でも使えると思うので、このロールプレーを効果的に生かしながら、心の健康を保てる方法を自分で身につけてもらえたらいいなという思いで、私は東京書籍を推薦したいと思う。

○ 妹尾委員、お願いします。

○ 私も東京書籍と学研教育みらいとで迷ったのだが、最終的には東京書籍を推薦したいと思った。保健の関係がどんな感じで授業がされているのかというのが、僕自身どうだったかというのもあまり記憶にないのだが、児童が自分でぱらぱら読んでみて、それでも理解できる、自学ができるっていう視点も結構重要なのかなと思っている。やっぱり、けがの予防、病気の予防であるとか、心の健康の問題だとか、常に身近にある事柄で重要なことが書かれていて、これをぱらぱらと見て学ぶだけでも結構役割としたらあるのかなと思っている。その意味で、読んでわかりやすいという面が東京書籍の教科書にはあるのかなと思った。

○ 石井委員、お願いします。

○ 私は、学研教育みらいを案として選択した。最もいいと思ったのは、巻頭のところで、「健康って、どんなこと」と出てきて、一人一人が限らない能力とすてきな個性をもっていますということで、保健は健康について考えるのだとか、そういう権利、健康を勉強するのだなというのが、まずよくわかるということ。それから、そのページの中に、障害者の方の写真が出ているが、健康について考えていくのだけれども、どうしても、もう既にそれがマックスの状態で保たれてない人もいるのだということを踏まえた上で、みんなで助け合い、支え合って、みんな健康に生きていく社会をつくっていきましょうというのが明確に打ち出されていて、その部分で学び、考える、自分の頭の中で考えるとか興味をもつということが、そこで進むのではないかなと感じた。

あとは、コラムの中で、「もっと知りたい・調べたい」というのが出てくるが、非常に興味をもって勉強できるような内容が含まれていて、学研教育みらいが非常にいいなと思う。

教育長
妹尾委員

教育長
石井委員

<p>教育長 妹尾委員 片山委員 妹尾委員 石井委員</p>	<p>○ 初めて2対2になってしまったが、もうちょっと意見を伺わせていただけたらと思う。東京書籍のほうで、片山委員と妹尾委員願います。</p> <p>○ 私は、どっちかというとなんだほうなので、先生はどんな感じであるか。</p> <p>○ それを言われると、私も悩んだので。</p> <p>○ 何か、今の石井委員の話聞いて、結構説得はされて。</p> <p>○ 東京書籍は、心のところが、お二方、ご指摘されていたので、それは、私は申し上げなかったが、大事な要素というか、今、学校の中で起こっていることも踏まえて、大事なことではあるかなと思う。</p>
<p>藤原委員 石井委員 藤原委員</p>	<p>○ 喫煙のところは何ページあるか。学研教育みらいが1、2。東京書籍は。</p> <p>○ 東京書籍が、4ページ。</p> <p>○ 4ページもある。</p>
<p>教育長 全委員 教育長 指導課課長代理</p>	<p>学研教育みらいは飲酒、喫煙はしないために、というページがある。</p> <p>○ 片山委員が言われた、動画とか、そういうことについても記述されているというので、東京書籍でいきたいなと思う。いかがであるか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ では、東京書籍ということで、採択理由をお願いします。</p> <p>○ それでは、理由のほうだが、委員が言われたが、動画が効果的に使われているという点と、それから2点目にロールプレーの手法が丁寧に具体的に書いているという点。それから、心の問題など、特に重要なところをしっかりと丁寧に書かれているというところがあったと思う。それは、ロールプレーとも関係するので、それに当てるとして、もう一点は、自学ができるのではないか、読みやすい、よりわかりやすいというところを3点目にさせていただこうかと思う。</p>
<p>教育長 指導課指導副主査</p>	<p>○ ということで、東京書籍ということで進めていきたいと思う。</p> <p>続いて、英語の説明をお願いします。これは初めてのものである。</p> <p>○ まず、東京書籍である。表現活動である「Enjoy Communication」では第5学年の早い段階から会話例を文字として示しているが、自分のことを話す部分には色や絵がついており、児童が会話の内容を推測しやすいよう工夫されている。また、第6学年では、主語・動詞が色分けされており、文の構造を捉えやすくなっていることが挙げられた。</p> <p>次に、開隆堂である。巻頭に「CAN-DOマップ」、各単元末に「ふりかえりをしよう」のコーナーが設けられており、学習の見通しを立て、活動後に振り返りを行うことで、効果的に学習を進めることができるよう工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に、学校図書である。リスニングにおいて、内容を聞き取るだけでなく、その内容が「自分にもあてはまると思うとき」は繰り返して発音することで、その後の言語活動につながるよう工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に、三省堂である。各学期に行う「JUMP」では、準備から自己表現までの活動の流れを絵や写真でわかりやすく説明しており、児童が見通しをもって言語活動に取り組めるようになっている。また、準備した内容を全体に発表する前に他の児童やグループと情報交換する場を設けており、その情報をもとに発表内容を改善できるよう工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に、教育出版である。巻末に付属されているシールを使ってピザをつくったり、小学校で学んだことの集大成として「好きなこと」や「できること」を1文ずつ書いて「My Book」を作成したりする活動を設け、児童が意欲をもって取り組めるよう工夫されていることが挙げられた。</p> <p>次に、光村図書である。単元の構成が、「映像を見る」、「聞き取り」、「リズム練習」、「ゲーム」、「英語でやりとり」、「書く」という流れで統一されており、短時間の活動をテンポよく行うことで児童に十分なインプット・アウトプットを行うことができるよう工夫されていることが挙げられた。</p> <p>最後に、啓林館である。巻末の「Word List」は、自分の表現したいことを調べやすいよう単語が分類されていたり、各単元の活動で使用できるよ</p>

	<p>う、絵カードが豊富に準備されていたりしており、児童にとって使いやすくなっていることが挙げられた。</p> <p>以上である。</p>
妹尾委員	<p>○ 教科書は拝見させていただいたけれども、テストだとか評価というものがどういった形になるかというのを、ご説明いただいたかもしれないが、改めてご説明いただきたいと思う。</p>
指導課指導副主査	<p>○ 評価については、実はまだ明確には出ていない。11月の時期を待つということになっているので、現段階ではちょっと申し上げられない状態になっている。</p>
妹尾委員	<p>○ 概要だとか方向性みたいなものも、まだ正式には出ていないということか。</p>
指導課指導副主査	<p>○ そうである。</p>
妹尾委員	<p>○ わかった。</p>
教育長	<p>○ ほかに確認事項等ないか。</p>
全委員	<p>○ 〈なし〉</p>
教育長	<p>○ 事務局からつけ加えて、何かないか。</p>
指導課課長代理	<p>○ なし。</p>
教育長	<p>○ それでは、採択すべき教科用図書とその理由について、検討した結果を、藤原委員から願います。</p>
藤原委員	<p>○ 私は、迷ったのが、東京書籍と三省堂と啓林館で、3社になった。それぞれ、いいところがあって、どれを使ってもやりやすいのかなと思ったが、結論から言うと、三省堂の英語が、子どもたちにとって、目的もはっきり書かれていて、整理しやすいかなという感じがある。それは、コーナーのところに三省堂は、例えばこれは「Listen & Talk」とか何か全部書いてある。「Listen & Talk」、「Enjoy Listening」とか、「Write & Speak」とか書いてあって、最終的に迷った東京書籍は、例えば「Enjoy Communication」とか「Unit」とか「Your Turn」とか、雰囲気のことに関してはわかりやすいのだけれども、学習内容に関して、これをどうやっていくかという目的には、ちょっと遠いかなという感じがして、使いやすいのが三省堂かなという感じがした。</p>
	<p>それから、すっきりしているのと、東京書籍と三省堂を見て、最終的に、今言った啓林館も、例えば「Can-Do List」なんかというのは、中学校につながるところで、評価もやりやすいかなと思う。ただ、小学校英語と中学校は、そこまで連動しなくていいのかなとも考えている。最終的には2社にしたのだが、書くというところで、すごく瑣末なことかもしれないけども、4本の線の薄さが、東京書籍は3番目の線が薄くて、書きにくいのではないかなと思う。それが、三省堂はクリアだから、最終的には、4線の上に英語をどう書くかということまでつなげないといけないとしたら、わかりやすさは工夫してあるかなと思う。それから、挿絵なんかも、割とはっきりしているというところで、三省堂を推薦する。</p>
	<p>ほかに、東京書籍の「Picture Dictionary」は、確かに便利がいいなと思って、どこの教科書会社になっても、あれは使えるといいのかなと思うが、そういうわけにはいかないだろう。本編だけで言うと三省堂が、目的がはっきりして整理しやすい。また、コミュニケーションに役立つ表現が満遍なく書かれている。それが、とてもわかりやすい。5年生の英語科になったときのスタートが、世界の挨拶で始まっている。これは、これからの外国語は、英語だけではなく、いろんな国があって、その中の一つに英語圏があり、ツールとしての英語を勉強するということをつまえていかないと、世界にはいっぱい、いろんな国があって、いろんな言語があって、いろんな挨拶があるというところまで広げたいなと思った。その辺が、東京書籍には、ちょっと出だしがどうなのかなという感じがした。</p>
	<p>もう一つ、「日本のすてき」というシリーズが、どちらにもあるが、東京書籍</p>

の「日本のすてき」は、外国の人がどの仕事しているかな、という写真がずっとシリーズで何枚かあるが、ちょっとわかりにくい。例えば、九州の「日本はすてき」を出すときに、楽器の琵琶を弾いている絵があって、外国の人が持っているのだが、この人、琵琶奏者なのだろうか、琵琶をつくる人なのだろうか、そのあたりのわかりにくさが、ちょっとあった。

一方で、三省堂は、「どの国に行ってみたいかな」のところで、地図の誘導とか、日本の発見とかということで、5年生では、いろいろ日本と外国とのことについての言葉が外国語として載っている。ただ、1つ残念だなと思ったのは、さっき地図のところでもデジタルなことについて、ちょっと触れて、島の大きさの縮尺のあらし方のわかりにくさを言ったが、この場合、沖縄がここに載っている。これは地図帳でも、紙面の関係で、沖縄がこの辺に載る。沖縄の絵を、視覚の面で、この図面のとり方がひょっとして上に行ったとしても、沖縄がここにあるというような、何となく錯覚に陥るかなという感じがした。

- 石井委員、願います。
- 東京書籍と三省堂で、どちらかなと非常に考えていたのだが、東京書籍を案として挙げたいと思う。まず、全体の構成として感じたのは、各社共通だけれども、昔の中学校1年生からの英語が少し前倒しになるようなイメージではなく、本当、一から順番にやっていくということではなくて、テーマというものが意識されていて始まっている。したがって、突然過去形が入ったり、突然疑問文が入ったり、突然5W1Hが出てくるという意味で、私が中学校でスタートしたやり方とは違うやり方を今は考えられていて、意識されているのかなと思った。各社全ての教科書でそういう認識をもち「岡山市の子どもの課題」のところにも、「テーマに基づいて」ということが記載にあるので、そういうことを意識されているのかなと思う。

その中でも、三省堂は、中学校の英語で多分、よく使われているということも踏まえて、やはり構成が中でもしっかりしていて、英語で身につけることが明確で、その順番も、若干意識されているなどと思った。あとは教科書を使った復習、実習がしやすいのかなとも思った。一方で、東京書籍は、子どもが親しみとか好奇心をもって、主体的に取り組めるような構成になっていて、バースデーカードを送ろうとか、夢に近づく時間割りを紹介しようとか、ふるさとメニューを注文しようというような、自分に近いところで興味の湧くテーマで進められていると思った。

しっかりとした文法に近いところを勉強していくという意味では、三省堂がいいと思うが、入り口として、これは新しく始まる教科なので、算数と似たような位置づけで、苦手意識の子どもをつくらず、みんなが前向きにやっという意味において、東京書籍のほうがふさわしいのかなと思っている。ただ、評価とか、そういうものがどうなるのかということも影響があるのではないかなと思ったが、それがわからない中でも、東京書籍のほうがいいかなと思う。

- 妹尾委員、願います。
- 石井委員がおっしゃったところと重なるところがあるが、我々が中学校の英語で学習した時代というのは、それこそ数学と同じような感じで、積み重ねで、「This is a pen.」から始まってという、それをひっくり返して疑問文にしてというようなところから入ったわけだが、実際問題、「Is this a pen?」という質問するシチュエーションは、やはり、ないわけで。そういう意味で、やっぱりちょっと小学校の英語に求められているものが何なのかなというのは、この機会に考えた次第である。小5では、ひょっとしたら遅いのかもかもしれないが、ある意味、理屈抜きで語学に触れて、覚えていくところができる、ぎりぎりの年齢なのかな。そういう意味で、とにかくシチュエーションに応じて、頻出する表現、内容に触れる。かつ、できるだけ導入部分に苦手意識をもたせないという観点から、とにかく楽しそうな内容で、かつ、いろんな文例が、いろんなシチュエーションごとに掲載されているという視点から、どう

教育長
石井委員

教育長
妹尾委員

<p>教育長 片山委員</p>	<p>なのかなというのを、私は見てみた。</p> <p>その意味で、東京書籍が一番わかりやすい。特に、さつき藤原委員がおっしゃった、「Picture Dictionary」というのが、これがまとめるにうまくまとまっていて、これに立ち返ることで、頻出する表現について再確認ができるという、非常に便利なものになっているかなと思った。そういう意味でも、東京書籍を推したいと思う。</p> <p>○ 片山委員、願います。</p> <p>○ 私も、東京書籍と三省堂で迷ったのだが、最終的にはやっぱり東京書籍がいいかなと個人的に思っている。その理由は、やはり昨年度、岡山中央小学校の英語の授業を拝見したのだが、そのときに強烈な印象だったのは、子どもたちが、日本人の先生とALTの先生、お二方で授業してくださっていたときに、全くALTの先生に対して抵抗がない、ノンストレスだったということである。それは、やっぱり自分たちは日本人、ALTの先生は、どこかヨーロッパの先生だったかと思うが、そこに全く、同じ人間だという意識であったということで、対等に話をしたし、主張もしていたというところ。小学校英語で一番、私は大事なのは、読み書きというよりは、聞く話すかなということ、あのときに強烈に感じた。</p> <p>その聞く話すということで考えたときに、今度、この英語の授業をどなたがなさるんだろうということである。ALTの先生がたくさんいらっしゃるのか、日本人の先生もたくさんお教えになるんだとは思いますが、そこで正しい発音を耳から入れるというのは、とても重要なことかなと思う。QRコードにこだわるわけでは全然ないが、東京書籍は、先ほどの「Picture Dictionary」も、それからこのテキストにおいても、QRコードを出されて、そして、そこで生のネイティブな発音が聞けるように、随所にそういう工夫がなされているかなと思う。最初に聞くものなので、本物を聞くというのは大事かなと思う。大学もリスニングを重視される入試の時代になるし、国際人として、聞く話すというのを、まず入っていくところでは重視して、そこから発達段階に応じて、書く、読むというところに入っていくてもいいのかなということで、東京書籍を個人的に推したいと思う。</p>
<p>教育長 全委員 教育長</p>	<p>○ 何か、他に付け加えておっしゃりたいことはないか。</p> <p>東京書籍と三省堂がたくさん意見があり、東京書籍のほうが若干多いということだが、東京書籍で採択してもよいか。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ では、今まで皆さんがおっしゃってくださったことで、一番使いやすいのかなということはあると思う。三省堂は、中学校との絡みではいいのかもしれないが、少し目的が小学校と中学校では違うのかなというあたりの、読む聞くとかの、外国語をとにかく楽しく勉強しようというのが小学校では、ということであったと思う。東京書籍ということで採択をする。</p>
<p>指導課課長代理</p>	<p>○ 楽しく学習ということで、興味が湧くようなテーマで、小学校ということから、教育長が言われた点が1点。それから、妹尾委員が言われた、選定資料にもある「Picture Dictionary」があるということ。片山委員が言われたが、やはり正しい発音が最初に聞けるというのが大切ではないかというご意見があったので、それら3点でいかがであろうか。</p>
<p>教育長 指導課指導副主査</p>	<p>○ では、英語は東京書籍を採択したいと思う。</p> <p>次に、道徳について事務局から説明をお願いします。</p> <p>○ 道徳について説明する。</p> <p>まず、東京書籍である。問題解決的な学習に対応した教材「問題を見つけて考える」では、考えるポイントや考えるステップが示され、児童が自ら考え、判断できるようになっていることが挙げられた。</p> <p>次に、学校図書である。「まなび」の巻末にある「まなびのヒント」に役割演技や話し合いの仕方等が示されており、道徳的行為に関する体験的な学習や自分の考えを表現する機会の充実が図られていることが挙げられた。</p>

次に、教育出版である。現在、国内外で活躍する人や日本社会の発展に貢献した先人たちが多数紹介されており、日本の歴史を知り、我が国のよさを実感できるようになっていることが挙げられた。

次に、光村図書である。各教材の初めには、吹き出しで授業の導入のヒントが、「考えよう・話し合おう」ではめあてや問いが整理されており、授業で何を学ぶのかがわかりやすく、道徳的価値について理解しやすくなっていることが挙げられた。

次に、日本文教出版である。「学習の手引き」では、問題解決的な学習や体験的な学習について具体的に示され、児童が多面的・多角的に考え、表現できるようになっていることが挙げられた。

次に、光文書院である。各教材で、初めに教材を通して考えたいことが、下段に道徳的価値について多様に考える問いが、さらに最後には、考えたことをまとめるための発問や活動が示され、道徳的価値について考えを深めることができるよう工夫されていることが挙げられた。

次に、学研教育みらいである。教材の後ろには、「やってみよう・つなげよう・広げよう・深めよう」といったページが示されており、多様に学びを展開したり、学んだことを実生活につないだりできるよう工夫されていることが挙げられた。

最後に、廣済堂あかつきである。各教材に「学習の道すじ」として、「めあて」と「めあて」を踏まえて捉えさせたい道徳的価値に向かう発問が示されており、児童が道徳的価値に焦点化して考えることができるよう配慮されていることが挙げられた。

以上である。

- 何か見本本や選定資料について、質問や確認事項はないか。
- 〈なし〉
- それでは、同じように社名と理由を、片山委員からお願いしたいと思う。
- 私は、日本文教出版と光村図書で、とても悩んでいる。

まず、日本文教出版に関しては、よりよく生きるために大切なことということで、道徳学習の目標が端的にあらわされていて、各学年の学習内容が展開されているという点で、今、何を学んでいるのだろうかというところが、最終的には全て、よりよく生きるために大切なことは何かというところに返っていくところが、とてもわかりやすいなと思った。それから、「学習の手引き」では、教材をもとに、どのように考えを深めていけばいいのか、具体的な学習の道筋が示されていて、考え方、どういうふうにしたら、よりよく生きる大切なことにつながっていくのかというステップがわかりやすいかなということで、道徳ノートも具体的に示されて、これも有用であろうと思った。ということで、初任の先生でも指導されやすいかなと思った。

それから、光村図書に関しては、「考えよう」とか「話し合おう」ということが書いてあって、「岡山市の子どもの課題」である「自分自身の問題として主体的に考え、自分の考えを表現する」、それは他者の意見を聞くことということで、実際の場面において自分で判断し、行動できるような力をつけるために、いい教材になっているのではないかなと思った。

最終的には、決めかねるところではあるが、日本文教出版を個人的には推薦したいと思う。

- 妹尾委員、お願いする。
- 私も日本文教出版がよいのではないかなと思う。今回の教科書の採択全般がそうなのだが、主体性、主体的というのがキーワードだと思っていて、選定資料の中でも、先ほど片山委員もおっしゃったが、「道徳的価値についての理解をもとに、自分自身の問題として主体的に考え、自分の考えを表現することに課題がある」というふうに記載されている。おそらくなのだが、これは日本人全般の問題かもしれないが、「道徳的価値についての理解」というところは、多分、皆さん、そんなに、できていると言うとおかしいが、それを「自分自身の問題として主体的

教育長
全委員
教育長
片山委員

教育長
妹尾委員

に捉えて、どう行動していくのか」という力が、やや欠けるところがあるのかな、これは自分自身を振り返ってでもあるのだが、そう思っていて。そのあたりのところを、教科化されたわけであるから、力点を置いてやっていったらいいのかなと思っている。

その意味で、日本文教出版の教材というのが優れているのではないかと思った。具体的に言うと、6年生の「わたしのせいじゃない」というテーマで書かれていて、泣いている子がいるのに、みんな私のせいじゃない、周りの子14人が、みんながそれぞれ言いわけをしている。それに関して、「考えてみよう」という欄があって、この学級のいじめをとめるために、あなたなら、1から14の誰に、どのように話しかけるかなという、こういう実践的な問いかけがあって。そのあたりが、非常に突っ込んで、なかなか自分でも考えてみたが、悩ましいなど、何か大人の縮図かなという感じもするのだが。そのあたりが非常によいのではないかなと思った。

あと、出されている教材の例も、命にかかわることが結構多く掲載されていて、常に、いじめの問題であるとか、人の命もちろん大切にしなければいけないが、その反面として、自分の命も大切にしなければいけないという、そのあたりのところも学習ができるのではないかと思い、日本文教出版が一押しということである。

- 石井委員、願います。
- 道徳が始まって1年ということで、前回の教育委員会での選定から変化させる理由等は見当たらないので、前回の選定と同様に日本文教出版を継続して利用するという。特に、道徳も始まって1年ということもあるし、前回選定した理由も適切だったということをあわせて、日本文教出版を選定した。

- 藤原委員、願います。
- 私も最後に迷ったのは、光村図書と日本文教出版であった。光村図書は、やっぱり読み物のところはものすごく充実している。道徳だから、感性に訴えて、読んだだけでも道徳的価値を学ぶということもあると思うので、そういう意味では、とてもいい教材をたくさん置いているなという感じがした。ただ、それを指導するとしたら、子どもに読ませて考えさせるだけではないことを考えると、日本文教出版のほうが系統的にいろんなことを取り上げて、指導しやすい、子どもも学びやすいかなという中身かなと思った。

出だしも、小学校1年生のときに、既に私は何々名人という、これは多分、みんなが違って、いい個性があるよというのを、一番に教えないと、いじめになる可能性とか、自分はみんなとちょっと違うとか、そういうことにつながりやすいと思うが、何々名人というのは、難しいことを言わなくても、すごく個性を大事にするというのが感じられる。だから、道徳的価値が何とかというよりも、1年生の出だしのところでは、この人はこういう個性がある、この人はこういう個性があるというのを、「名人」ということであらわされているかなと思った。

その流れでいって、やっぱり道徳的価値として知っていることが、自分の生活の中で行動できるようなことになるためにということで、「いじめ」のところでは、「いじめ」と「いじり」ということで、学校でよくあるのは、やっぱり、「いじり」で、「いじめ」ではないと思っている。先ほど妹尾委員の「私のせいじゃない」というところと重なる部分がある。それをちゃんと、傍観者がこういうことじゃいけないというのを四層構造を使って、構造的に教えているという点でも、使いやすさも、いいところかなと思ったので、日本文教出版がいいと思った。

- 皆さん、日本文教出版が適しているということで、決めたいと思う。
- 片山委員が言われていた、「学習の手引き」であったり道徳ノートであったりというのが選定資料にもあるので、これのよさであったりとか、それから妹尾委員が言われた、これも選定資料にも掲載があるが、「考えてみよう」というところで、自分のこととして、自分とのかかわりで考えていけるような工夫がなされている点も挙げたいと思う。それから最後に、藤原委員が言われたが、系統的

教育長
石井委員

教育長
藤原委員

教育長
指導課課長代理

<p>教育長</p> <p>指導課課長代理</p>	<p>に指導しやすかったり、学習しやすかったり、そういった点も挙げるができる。</p> <p>○ それでは、以上の理由で日本文教出版ということで採択したいと思う。以上で小学校の教科用図書についての採択を終わろうと思う。事務局から、続けて説明をお願いします。</p>
<p>指導課課長代理</p> <p>藤原委員</p> <p>指導課課長代理</p> <p>藤原委員</p>	<p>○ 小学校の教科用図書が決まったので、続いて特別支援学級で使用する教科用図書についてお願いします。</p> <p>それでは、特別支援学級で使用する教科用図書については、より児童・生徒の実態に合った教科用図書を使用するというので、各学校のほうで選定委員会を組織し、採択いただきたい教科用図書を選定している。事務局で必要な指導助言を加えた上で、資料にある「令和2年度使用特別支援学級教科用図書選定資料」のほうを取りまとめている。一覧表のほうもあるので、あわせてごらんいただきたい。</p> <p>本日は、その資料にある絵本等の一般図書134冊と文部科学省の著作本13冊の合計147冊全ての採択をお願いしたいと考えている。本日、机上のほうに置かせていただいているのは、今年度新しく採択していただきたい図書を並べさせていただいている。そのほか、147冊であるので、そのほかについては、教育長の後ろにあるボックスの真ん中と左側のほうが一般図書となっている。必要に応じてごらんいただければと思う。</p> <p>以上である。</p> <p>○ 最終的には、各学校の特別支援学級の障害の程度とか種類とか、個人差によって、一人ずつが違っていいということか。</p> <p>○ そうである。</p>
<p>指導課指導副主査</p> <p>藤原委員</p> <p>指導課指導副主査</p>	<p>○ それは、根拠としているのは、担任の先生が一人一人をよく見ているのだろうけども、交流とか、流れの積み重ね、そういうことも使うのか。</p> <p>○ 各学校のほうから、一人一人の実態を話して、それから今までの給与履歴もあわせて見て、そのあたりが段階的に選ばれているかどうかというあたりをこちらのほうでチェックしている。それから、教育支援計画であるとか指導計画も、場合によっては細かく聞き取りをさせていただきながら、実態に合ったものが選ばれているかどうかというところを、こちらで見ている。</p> <p>○ 例えば、6人同じクラスにいても、それぞれが違うということもあるか。</p> <p>○ そうである。実態に合わせているので、場合によっては、そのようなケースもある。</p>
<p>教育長</p> <p>藤原委員</p> <p>教育長</p> <p>全委員</p> <p>教育長</p>	<p>○ ほかにご質問等はないか。</p> <p>○ 現場で適切なものが選ばれているということである。</p> <p>○ 事務局から示された案のとおり採択するというので結構か。</p> <p>○ 〈承認〉</p> <p>○ それでは、案のとおり採択するというのでお願いします。事務局から続けてお願いしたい。</p> <p>それでは続いて、高等学校、岡山後楽館高等学校用教科用図書について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>指導課課長代理</p>	<p>○ 続いて、岡山後楽館高等学校用教科用図書について採択をお願いします。</p> <p>後楽館高校のほうは、単位制の総合学科で、カリキュラムをそれぞれ組んでいるので、多岐にわたり、大変分量が多くなっている。本日は、新しく新規で4冊、採択をお願いしたいものがあるので、その教科書と、それから一部を置かせていただいて、それ以外のものについては、先ほどの教育長の後ろにあるコンテナの一番右のほうに、高等学校の教科用図書のほうは用意している。</p> <p>岡山市立岡山後楽館高等学校においても、学校のほうで選定委員会を組織してもらっており、そちらのほうで選定されたものを、教科用図書の一覧と選定理由書をもとに採択をお願いしたいと考えている。選定理由書のほうに「第1部」というふうに書いているところがあるが、そちらについては、現行、現在使用して</p>

<p>教育長 石井委員</p>	<p>いる学習指導要領、平成21年度告示の学習指導要領に沿った教科用図書という 意味である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 何か意見があればお願いします。 ○ 高校の教科書は義務教育から外れているということで、自由度も高くなっているという点もあるが、その中で、学年が変わったタイミングで教科書が種類が変わるとかということも当然起こってくるかと思うが、その中でそのつながりがうまくできるように調整というのは、その学校の中でしていただけるという認識でよろしいか。
<p>指導課課長代理</p> <p>教育長 全委員 教育長 全委員 教育長 指導課課長代理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ そのとおりである。やはり、教科担当がいるので、そちらのほうと教科の会のほうでも話をしながら、選定をしているかと思う。 ○ 他にないか。 ○ 〈なし〉 ○ では、案のとおり採択するということによろしいか。 ○ 〈承認〉 ○ それでは、事務局から続いて説明をお願いします。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ それでは最後に、中学校及び岡山後楽館中学校で使用する教科用図書についてお願いします。中高一貫校である岡山後楽館中学校については、ほかの中学校と別に採択を行うことができるが、岡山市においては、ほかの中学校と同じ教科用図書採択を行っている。中学校は、今年度、4年に1回の採択がえの年となっているが、平成30年度、昨年度、検定において新たな図書の申請がなかったため、前回の平成26年度検定合格図書の中から採択を行うこととなっている。 <p>委員の皆様には、平成28年度使用、前回の採択のときに使用した、岡山市立中学校及び岡山後楽館中学校教科用図書選定資料のほうを事前にお渡しさせていただいている。教科用図書も机上のほうにあるが、そちらのほうもごらんいただいて、本日まで独自に調査研究を進めていただいているが、ご審議の際にも必要に応じて見ていただければと思う。よろしくをお願いします。</p>
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ これは、選定資料と教科用図書を見て、各自で検討してくださっていると思うので、それを発表いただきたいと思う。
<p>藤原委員</p>	<p>藤原委員、お願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 岡山市に、この種類の中学校は1校だけということで、教科書も、ほかの一般校と一緒にのものを使って、近々に採択がえもあるということであるから、これでいいのではないかと思う。
<p>教育長 石井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 石井委員、お願いします。 ○ 前回のこの選定以降、特に変化を持たせる必要性についてはあげられないと思うので、今のもので進めたらいいと考えている。
<p>教育長 妹尾委員 教育長 片山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 妹尾委員、お願いします。 ○ 私も同意見とさせていただきます。 ○ 片山委員、お願いします。 ○ 私も同意見である。
<p>教育長 全委員 教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ それでは、意見が皆さん一致しているので、全ての種目において現在使用している教科用図書を採択することに決定してよろしいか。 ○ 〈承認〉 ○ それでは、以上で本日予定していた教科用図書採択についての審議は終了する。事務局から連絡があればお願いします。
<p>指導課課長代理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後、採択図書をまとめ、県教育委員会のほうへ報告する。 <p>なお、採択に係る資料、採択教科書、採択理由等については、教科書の採択に関する信頼を確保する観点から、法で定められた採択の時期である8月31日までは公表を控えていただき、それ以降にホームページで公表したいと考えている。</p> <p>以上である。</p>
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ このことについて、何かご意見があるか。

全委員 教育長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 〈なし〉 ○ それでは、これで教育委員会定例会を閉会とする。 この後、報告案件があるので、教育委員の皆さんには、もうしばらくお時間を いただいて、傍聴者の皆さんはご退室をお願いします。
------------	---

傍聴の状況		
報 一	道 般	2名 12名